雪の音（ゆきおと）

Vol.132
平成30年2月15日発行

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

雪の音

CONTENTS　目 次　　2018 February Vol.132

巻頭言	糸魚川大規模火災からの復興まちづくり	一般社団法人建設コンサルタンツ協会 北陸支部長　寺本邦一	1
特　集	～未来への橋渡し～ 長生橋80周年事業	新潟県長岡地域振興局　地域整備部	2
随　想	福は内、鬼は外	水野　晶	6
寄稿文	「立山砂防」の世界文化遺産登録を目指して	富山県土木部 砂防課長　森田耕司	8
ちょっと気になるコーナー	台湾で最も尊敬される日本人	中越トラベル（朝日交通㈱観光部） 常務取締役　山崎康裕	12
お知らせ	北陸地方整備局との意見交換会の概要	対外活動部会	14
お知らせ	新潟県土木部との意見交換会の概要	対外活動部会 新潟地域委員会	17
お知らせ	新潟市との意見交換会の概要	対外活動部会 新潟地域委員会	19
お知らせ	平成29年度 橋梁現場見学会 上信越自動車道 4車線化事業　滝寺第二橋／二俣川橋 上部工事	技術部会 橋梁委員会	21
お知らせ	平成29年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務･研究発表会	技術部会 品質向上委員会	23
お知らせ	「出前講座」県立新潟工業高等学校 道路計画概論	技術部会 道路委員会	27
お知らせ	まちづくりセミナー研修報告 ～静岡県浜松市～	都市計画委員会	31
お知らせ	平成29年度 道路･トンネル見学会	技術部会 道路委員会･トンネル委員会	33
お知らせ	平成29年度 技術セミナー開催報告 「グリーンインフラを考える ～渇の再生･保全を通じてワイズユースを考える～」	建設環境委員会	35
お知らせ	平成29年度「小学生のための出前講座」 新潟市立東青山小学校	広報部会 広報委員会	37
お知らせ	平成29年度 河川研修会報告 －梯川堤防開削現地検討会及び勉強会（北陸地整との共催行事）－	技術部会 河川及び砂防委員会	38
	北陸支部活動報告	事務局	40
	会員名簿 各部会･委員会委員名簿	事務局	46
	編集後記	須藤勝彦	

［題字］
元北陸地方建設局長
廣瀬利雄　揮毫

［表紙］
タイトル　清津大橋より有倉山を望む
撮影地　新潟県中魚沼郡津南町
撮影者　猪俣孝之

［裏表紙］
タイトル　県道から飯山線越後田中駅を望む
撮影地　新潟県中魚沼郡津南町
撮影者　猪俣孝之

巻　頭　言

糸魚川大規模火災からの復興まちづくり

一般社団法人建設コンサルタンツ協会　北陸支部長
寺本邦一

平成28年の暮れもおし迫った12月22日、大規模な糸魚川大火が発生しました。被災は最大瞬間風速27メートルを超える強風により、古くから加賀街道の宿場町として栄えた木造住宅が密集する中心市街地に延焼し、147棟約４万平方メートルに達し、30時間後にようやく鎮火しました。

単一出火の延焼による火災の規模としては、日本国内の過去20年間で最大となりました。日本海側は顕著なフェーン現象がおき易く、乾燥した強風による火災が広がり、これまでに鳥取大火や酒田大火など消失面積10万平方メートル以上の大規模な大火が戦後10件発生しています。

被災地の特性として、４メートルに満たない狭い道路が多く、間口が狭くて奥行が長い町屋風の木造家屋が密集し、公園や広場等のオープンスペースがほとんど無かったことが被害を拡大させたと考えられます。

糸魚川では昭和３年と７年、そして29年にも地域特有の強風による大火を経験しており、なかでも昭和７年の大火では368棟が全焼しました。このように被災は繰り返し発生することを認識して、大火の教訓を語り継いでいくことが大切です。

そして、復興に向けたまちづくり計画が検討・策定され、平成33年までの５カ年計画で復興するまちづくりを目指すことになります。計画には「災害に強いまち」「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」の３つの方針を掲げ、「大火に負けない消防力の強化」など６つの重点プロジェクトが実施されます。

「復興まちづくり計画」案に対する市民の関心が高く、パブリックコメントでにぎわい創出広場の整備や無電柱化の対象地域拡大等の意見を踏まえ決定されました。そして、地方中小都市では初めてとなる都市防災推進事業（不燃化促進）による延焼遮断帯の形成と、雁木の再生による糸魚川らしい街並みづくり等を位置づけ条例で義務化を目指します。

特に、未来に向けた品格と魅力のある糸魚川の顔となる防災空間としての都市空間の創出が重要な要素となり、電線類の地中化に対する関係機関の協力が欠かせません。

今後、糸魚川市は北陸新幹線延伸、高規格・松本糸魚川連絡道路や国道８号糸魚川東バイパス等の広域交流ネットワークを充実して、北陸地域の中核としての復興・発展に期待します。

建設コンサルタントは、まちづくりの専門家として防災意識の転換・向上を図り、糸魚川と類似地域の多い北陸地域の安全なまちづくりに向けて積極的に役割を果たしてまいります。

～未来への橋渡し～
長生橋80周年事業

80th
Chousei-Bridge Anniversary

新潟県長岡地域振興局　地域整備部

1. はじめに

長岡の東西を結ぶ大動脈として“まち”の発展を支え、日本三大花火と称される長岡まつり大花火大会ではナイアガラの舞台として親しまれてきた、現在の３代目長生橋は、平成29年10月に完成（昭和12年10月）から80年と節目の年を迎えました。

この記念すべき80周年を迎えた長生橋について、これまでに果たしてきた役割や魅力を再認識するとともに、今後のあり方を考える機会とするため、長岡地域振興局、長岡市、長岡商工会議所など12の機関による「長生橋80周年事業実行委員会」を組織し、シンポジウムなどの記念事業を開催いたしました。

また、長生橋の魅力をより一層高めるために、協賛金・募金によるライトアップを企画し、13連のトラスを美しく夜空に浮かび上がらせました。

本稿では、「長生橋の概要」と「長生橋80周年事業」の実施内容について報告します。

長生橋全景（上流側右岸より撮影）

長生橋位置図

2. 長生橋の概要

（１）歴史

①初代長生橋～舟渡から橋へ～

明治時代初期までは、信濃川を渡る手段は船しかなく、「草生津（くそうづ）の渡し」が唯一の交通手段でした。しかし、洪水や春の雪解けの時期は渡れなかったり、転覆したりして交通の難所でした。このような状況の中、長岡の元庄屋だった廣江椿在門が、新潟県に架設願を提出して認可を受け、中洲を経た２つの木橋を1876（明治９）年に架けました。

当時の橋は有料でしたが洪水で何度も流出し、修理費を通行料金で賄うことができなくなり、橋は新潟県に移管され通行料金も無料化されました。

初代長生橋（長岡市立中央図書館所蔵）

②２代目長生橋～日本一の木橋～

1914（大正３）年８月の洪水で橋の大半が流出したことから、県は新しい橋の架設を計画し、1915（大正４）年11月に総事業費12万円（当時の小学校教員初任給は15円）をかけて２代目の長生橋を架けました。兵庫県から取り寄せた杉材が使用され、橋長872.73mは、当時の木橋としては日本一の長さでした。

２代目長生橋（新潟県立図書館所蔵）

③3代目長生橋～木橋から鋼橋へ～

2代目の長生橋も木橋だったため、洪水のたびに部分流出を繰り返し、また、自動車交通の時代となりその激しい揺れで損傷も著しく、鋼橋への架け替えを求める声が大きくなりました。そして、県は1932（昭和7）年11月、県議会において長生橋を鋼橋に架け替えることを決定し、1934（昭和9）年1月に下部工事に着手。総事業費78万円（当時の公務員初任給は75円）をかけ、1937（昭和12）年10月12日に3代目長生橋が完成しました。

建設中の長生橋 昭和10年頃（㈱植木組所蔵）

昭和12年に竣工した3代目長生橋
（長岡市立中央図書館文書資料館所蔵）
※左奥は2代目長生橋

（2）長生橋の構造（3代目）

＜現橋の諸元＞

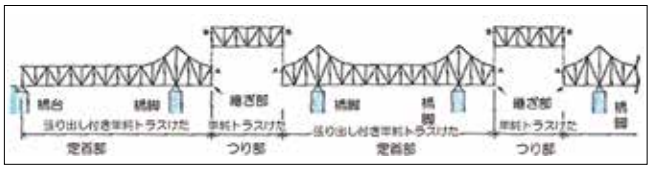
- **路 線 名：一般国道351号**
- **橋　　長：850.8m**
- **支 間 長：67.5m+11@65.0m+67.5m　13経間**
- **構造形式：下路式鋼ゲルバーワーレントラス**
- **橋体鋼重：2,242.9ｔ（建設当時）**
- **設 計 者：大野臺助（だいすけ）（県土木部道路課技師）**
- **施 工 者：**

（株）植木組（下部工、上部工3経間）
大阪鉄工所（現：日立造船（株）、上部工10経間）
※歩道橋（下流側）は、昭和47年10月に完成

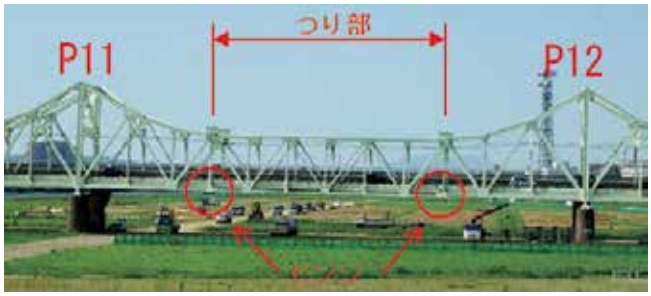
戦前に完成した現在の長生橋は、多連・上曲弦方式の現存するゲルバートラス橋では国内最大規模といわれており、12の橋脚支点上にあるトラスの山が、大河信濃川や東山と組み合わさり、長岡を代表する景観を生み出しています。

一般的な単純トラス橋は、上弦材と下弦材が平行若しくは支間中央部が高くなるアーチ形状となります。一方、長生橋は橋脚上のトラスが最も高くなっていますが、これは長生橋がゲルバーヒンジ形式により、部材にかかる力を逃がすため（鋼重を減らす）にできたものと思われます。

戦前から昭和30年代頃までに、県内の信濃川や阿賀野川などに架設されたトラス橋は、長生橋を除き単純トラス構造となっています。長生橋が架設された当時は鉄が貴重であり、より経済的な構造とするためにゲルバートラス形式としたと思われますが、当時の設計資料は長岡空襲により焼失しているため、正確なところは分からず非常に残念です。



ゲルバートラス橋のイメージ



長生橋は、長岡大花火大会などで下流側から見る機会が多いかと思いますが、先人たちの技術の結晶である長生橋の構造を詳しく見るためには、上流側（右岸）から見てみることをお勧めします。

（3）長生橋の維持管理

長生橋の維持管理にあたっては、鋼橋の宿命である再塗装や、腐食した鋼材の取替えが定期的に必要となってきます。直近では、平成17年から平成24年の間に実施しており、これらの補修工事の費用は約6億5千万円となっています。

また、下路式トラス構造のため、上部に堆積した雪が落雪して走行する自動車に被害を及ぼす事故が発生します。車両が安全に通行できるよう、冬期には夜間通行止めにして、雪庇落としを行い落雪事故防止に努めています。

3．「長生橋80周年事業」の実施内容

（1）実行委員会予算による事業

①ありがとう長生橋、
長生橋の魅力（ステキ）再発見シンポジウム

【概要】

・日　時：7月9日（日）　14：00～17：00
・場　所：長岡社会福祉センタートモシア
・参加者：約100名

【内容】

・基調講演
稲川　明雄　氏（河井継之助記念館　館長）
・発表
「たのしく知ろう長生橋」大島小学校5年生児童
・パネルディスカッション
「長生橋のあんな魅力　こんな魅力」
水流　潤太郎　氏（長岡市景観審議会　委員長）
ほか4名

当日は、会場の定員を上回る多数の方から参加頂き、改めて長生橋への関心の高さが伺えました。

まず、稲川館長より、3代目長生橋建設に関わった人々の努力に焦点を当てて講演して頂き、大島小の児童からは、昨年度出前講座にて学習した長生橋の歴史を、紙芝居形式で発表をして頂きました。パネルディスカッションでは、長生橋の魅力や今後より魅力を高めるための提言を行って頂きました。

パネルディスカッションの様子

②長生橋の魅力（ステキ）再発見写真コンテスト

【概要】

・テ　ー　マ：長生橋を被写体の一部とし、
長生橋の魅力やステキを表現する作品
・表　　彰：一般部門（5点）、小中学生部門（5点）
・応募総数：395点

③長生橋歴史パネル展・親子見学会

【長生橋歴史パネル展　概要】

・期　　間：7月29日（土）～8月7日（月）
・会　　場：フェニックス大手イーストスクエア
・展示内容：
初代、2代目、3代目の長生橋に関する貴重な写真や資料を、歴史背景や解説文とともに展示し、それぞれの長生橋が果たしてきた役割を振り返りました。

開催期間が「長岡まつり」と重なったことから、市外や県外から訪れた方々にも「長生橋」を知ってもらう、よい機会となりました。

歴史パネル展会場の様子

【親子見学会　概要】

・日　時：8月19日（土）
・会　場：長岡地域振興局、長生橋右岸河川敷
・内　容：長生橋の歴史や構造などに関する学習会と
高所作業車による現地見学会
・参加者：20名（親子9組）

高さ12mまで上がる高所作業車に乗って頂いて、普段見ることが出来ないところから長生橋を間近で見学して頂きました。参加者からは、「普段見れないところが見れ、うれしかった」などの感想を頂き、非常に好評な取組でした。

高所作業車に搭乗しての見学会の様子

④長生橋のこれからを考えるシンポジウム

【概要】

・日　時：10月14日（土）　13：30～16：30

・場　所：アオーレ長岡　市民交流ホールB・C

・参加者：約200名

【内容】

・基調講演

「長生橋の現状、課題、長寿命化に向けて」

　宮下　剛　氏（長岡技術科学大学　准教授）

・長生橋の魅力（ステキ）再発見写真コンテスト表彰式

・パネルディスカッション

「長生橋のこれからを考える～未来への橋渡し～」

　松本　和明　氏（長岡大学　教授）　ほか４名

橋の専門家である宮下准教授より、インフラを取り巻く環境、長生橋の老朽化の現状や課題、長寿命化に向けた事例の紹介などについて、基調講演を行って頂きました。

また、パネルディスカッションでは、パネリストそれぞれの立場から、高齢化・老朽化した現在の長生橋の今後のあり方について語り合って頂きました。

パネルディスカッションの様子

（２）長生橋ライトアップ事業

【概要】

・市民や企業・団体からの募金・協賛金により実施（約740万円（176件）のご寄付を頂きました）。

・下流側（歩道橋側）にLEDライト24基を設置し、長生橋の特徴である13連の上曲弦方式のトラスを美しく夜空に浮かび上がらせました。

・長岡まつり大花火大会（８月２日、３日）のナイアガラ花火直前にお披露目として「点灯式」を実施し、約103万人の観覧者や、全国にテレビ中継され紹介されました。

・点灯期間は、10月末までの毎日、日没後から午後10時まで実施しました。

４．最後に

長生橋80周年事業には、多数の皆様からご来場・ご応募いただき、長生橋に対する関心が高いことや魅力などを改めて認識いたしました。

また、本事業と併せて新聞、テレビなどにも特集記事や特別番組などにより、大きく取り上げていただき、長生橋のこれまでの歴史や役割と現状などについて、一般県民の方々にも広く認識され、理解が深まったものと考えています。

結びに、貴支部及び会員企業の皆様からライトアップへの協賛金にご協力いただきましたことに感謝申し上げるとともに、長生橋が今後とも「長岡の宝」として、多くの皆様から親しまれ続けられるようご祈念申し上げ報告といたします。

ライトアップ点灯状況（右岸下流側から撮影）

随想　福は内、鬼は外

水野　晶

今年の冬は少し早めに到来したようだ。急な雪の予報に慌てて、週末、車のタイヤ交換を急いだ方も多かったようである。まだ11月なのにとぼやく声が、あちらこちらで聞かれた。ここ数年の暖冬に慣れた身には、急な寒さの到来は応えるものだ。新潟で生まれ育てば日本海独特の冬の雪下ろしの雷は、珍しいものではないはずだが、あの天が落ちてくるようなとどろきには子供のように毎回身がすくむ。叩き付けるように吹く風は、容赦なく裸木をしならせ、看板をガタガタ鳴らす。寝床で身を縮め吹きすさぶ風の音を聞きながら、明日の朝の積雪を心配しなくてはならないのは何とも切ない性である。

年が変われば、春はもうすぐそこのはずなのに、なかなか暖かくならない。それどころか、1月、2月は厳冬の季節で、底冷えのするような日々に辟易とするのは私だけではないだろう。心から暖かい春を待ち遠しいと思うのは、雪国ならではの感覚だろうか。

節分は冬と春の分岐点。豆まきは季節の変わり目に邪鬼を払い、福を呼び込むという大切な行事である。節分の翌日に、家の前の道路に豆が落ちていたりすると、この家では、昨夜、豆まきをしたのだなと分かる。子供達が口々に「福は内、鬼は外」と叫びながら、戸口から庭に向かって投げている光景が目に浮かぶ。勢い余り道路まで豆が飛んで来たのだろうかとほほえましく感じる。

昨今は、炒り大豆の代わりに殻付き落花生をまく家が多いだろう。幼子の小さな手では、一度に厳つい殻付きの落花生を幾つつかめるのだろうか。せいぜい三つ四つだろう。雪が残る道路で車に潰されて殻が割れると、それを鳥がついばむ姿もこの季節ならではの光景である。餌のない季節に節分のおこぼれを頂戴する鳥たちもまた春を待ちわびているに違いない。

もう随分前の話になるが、義母がくも膜下出血で倒れたのも2月だった。私達はたまたま夫の転勤で千葉県に住んでいた。温暖な南房総では、2月は花畑に各種の色とりどりの花が咲き乱れるころである。駆けつけると新潟はまだまだ寒く、冷たいあられが窓を打ちつける音が、手術を終えたばかりの病室に響いていた。手術は成功したという話であったが、酸素マスクを付けて横たわる義母は別人のようで、集まった家族はそれぞれの心にある不安を払拭できず、重く沈んでいくような気分だった。

病室から実家に戻ると、義母のいない家はやたら広く感じ、冷え冷えとしていた。義兄と私達家族、皆一様に疲れの浮かんだ重苦しい表情で何をしていいか分からず立ち尽くしていた。先のことを考えると、嫌でも悪いことばかり考えてしまう。小学校低学年の従兄弟三人も、いつもなら久しぶりに会うと大騒ぎするところだが笑顔もなく、さすがのやんちゃ盛りも事の重大さを感じ取っている様子だった。

そこに突然鬼の面を付けた夫が、スコップ片手に「福は内、鬼は外」と大声で言いながら現れた。子供達が驚いて、そして次には顔を見合わせながら笑い出した。「こんなときに、何やっているの」と私は眉をしかめたが、子供達の笑い声には勝てなかった。今にも泣きだしそうだった義姉も思わず吹き出した。「今日は、節分だ」と夫が言うと、先ほどまでの沈痛な空気は一変し、こんなときに不謹

慎に笑っていいのかと思いながらも、その場にいた皆が笑いだした。そして、豆まきが始まり、鬼に扮した夫に子供達が思い切り豆をぶつけた。閉じ込められたエネルギーが一気に放出されたようにはしゃぐ子供達の姿を見て、大人もまた張り詰めていた緊張を解いていったのである。今でも忘れられない節分の一夜である。

その後、義母は無事に退院し、様々な病気にかかりながらも、結構長生きをした。親族が集まるたびに、今でもこの夜の節分の夫の行動は話題になる。悲しみは周囲の人に伝わり沈痛な気持ちにさせるが、笑いもまた周囲の人を巻き込み楽しい気持ちにさせるのだ。笑うという行為の中に、人を幸せにする力があるのだろう。“笑う門には福来たる”とはよく言ったものだと思う。まさに「福は内、鬼は外」、悲しくも可笑しな思い出深い節分だった。

さて、我が家の節分はと言えば、子供が大きくなってからはいつしか豆まきもしなくなってしまった。数年前、夫が「たまには豆まきでもするか」と言い出し、玄関のドアを開けて大声で「福は内、鬼は外」と豆をまきだした。開け放したドアから寒風が吹き込み、その寒いことと言ったらなかった。思わず「寒いから、もうやめて」と言い、さらに、幼子のかわいらしい声ならまだしも、大人の蛮声では恥ずかしい。しかもかなりの大声。「近所に聞こえないように、もっと小さな声にして」と言わずにはいられなかった。挙げ句の果てには「そんなにまいたらもったいない」と追い打ちを掛け、早々にやめさせた。あれが最後の豆まきとなってしまった。

幼稚園や保育園では節分は大切な季節の行事である。よく、子供達から「今日保育園に鬼が来て、泣いた子がいたよ」という話を聞く。鬼に扮する先生達に子供達は紙つぶてでも投げるのだろうか。泣きながらも必死に鬼に向かって行く姿を想像すると、かわいらしいことこの上ない。やはり豆まきには子供の姿が似合う気がする。

小さいころ、まいた豆は年の数だけ食べると教わり、父や母はたくさん食べられていいなとうらやましく思い、逆に祖父母はたくさん食べなくてはいけないから大変だなと思ったものだった。そして、小さな自分はほんの少ししか食べられないと悔しかった。今は、自分の年だけ食べるとなると、かなりやっかいだ。子供に大変がられる年になったのだと、しみじみ思う。

年を重ねても家族で四季折々の行事を執り行うのは、楽しいものだ。自分が小さいときから毎年経験し慣れ親しんでいるはずの行事が、いつの間にか立場が変わるとちょっと違って見えたりするのは面白い。ああ、そう言えば、私は今年年女である。ずっとやっていない豆まきだが、今年はやってみようかなと思ったりする。年男、年女は福を呼び寄せる強い力があるのだという。でも、後の掃除が大変。うっかり拾い残した豆を踏んづけたりしたらやっかいだな、などと考えてしまうとなかなか実行できない。暮れに買った殻付き落花生はずっと戸棚の中にしまい込まれたままだ。テレビのニュースで年男、年女、力士が神社でやる豆まきを見るのがせいぜいだろうか。

節分の次の日から春になるのだという。陽の光がさんさんと降り注ぐ暖かな春が本当に待ち遠しい。重いコートを脱ぎ捨てて、1日も早く明るい空の下を歩きたいものだと、厚く垂れ込める雪空を眺めながら思う。たくさんの福を背負った春はすぐそこまで来ている。耳を澄ませば、その足音が聞こえてきそうだ。

プロフィール　水野　晶

1958年　新潟市生まれ
1987年　文芸たかだ井東汎賞受賞
1991年　新潟日報文学賞受賞
1993年　松岡譲文学賞受賞
2013年　にいがた市民文学賞受賞

「立山砂防」の世界文化遺産登録を目指して

富山県土木部　砂防課長　森田耕司

1. 立山カルデラの防災遺産

富山県の東部、立山連峰に、東西6.5km、南北4.5kmの楕円形の大きな窪地が存在する。これが立山砂防の舞台「立山カルデラ」である。

立山カルデラは、世界有数の年間5,000mmを超える降水量に加え、断層が走り、地質構造が脆弱な地域に推定２億㎥と言われる崩壊土砂が堆積するなど土砂が流出しやすい地形、地質、気象条件が重なる世界に類を見ない過酷な環境下にある。

立山カルデラ

この立山カルデラを源流にもち、標高3,000m級の立山連峰から富山湾までの延長56kmを一気に流下するのが「常願寺川」であり、平均河床勾配1/30の日本屈指の急流河川である。（流域面積368.1㎢、幹川流路延長56km）

安政５（1858）年には、跡津川断層を震源とする推定マグニチュード7.1の飛越地震が発生、立山カルデラ内の大鳶山（おおとんびやま）と小鳶山（ことんびやま）が崩壊し、天然ダムを形成した。この天然ダムが２度にわたって決壊し、大土石流となって下流域の富山平野を襲った。この飛越地震を境に、それまでもたびたび洪水を引き起こしてきた常願寺川は、毎年のように洪水を繰り返す暴れ川に変貌した。

繰り返される常願寺川の災害から、下流の富山平野に住む人々の暮らしを守るために、常願寺川上流の水源荒廃地で始められたのが、「立山砂防」である。

常願寺川の鳥瞰図

明治39（1906）年に富山県によって着手された砂防事業は、大正15（1926）年には「近代砂防の父」赤木正雄の計画による国直轄事業に引き継がれた。

赤木はカルデラ出口に常願寺川砂防の要となる白岩堰堤を築くとともに、その上流に順次堰堤を設置することで流域の安定化を図り、荒廃を呈する泥谷等の支渓には階段状の堰堤を設置し、カルデラからの土砂流出を抑えようとした。

立山砂防は富山平野の安全・安心を守る国家事業として、いまなお営々と進められており、立山砂防を始め、日本で確立された近代砂防技術が、今日では、世界の多くの国で導入され、各国の防災対策に貢献・寄与しており、日本の砂防技術の国際的な広がりが認められるところとなっている。

赤木による常願寺川砂防計画平面図（1926）　（一社）全国治水砂防協会 蔵

2. 世界文化遺産への提案

富山県では、この「立山砂防」を日本のみならず、人類共通の「防災遺産」として永く未来に守り伝えていくため、世界文化遺産への登録に向け取組んでいる。

平成19（2007）年には、立山カルデラの歴史的砂防施設群等を構成資産とする「立山・黒部」を世界文化遺産暫定一覧表記載候補として文化庁に提案した。信仰・砂防・発電という3つのテーマのもと、厳しい自然環境の中で、人々の安全･安心を守り続けてきた白岩堰堤などの33の資産が「防災大国日本のモデル」というコンセプトでまとめられたものである。

この提案は、平成20（2008）年の文化審議会世界遺産特別委員会の調査・審議の結果、残念ながら暫定一覧表には記載されず、「暫定一覧表候補の文化資産」と位置づけられた。この中で、「自然災害から暮らしを守り続けてきた人間の営為を刻む諸要素が特定地域に集中する資産として価値は高い」と評価されたが、「世界史的・国際的な観点から、砂防関連資産等に関して顕著な普遍的な価値を持つことの証明が不十分」とされ、砂防関連資産の世界史的・国際的な観点からの評価の確立、候補資産の文化財指定などの課題が示された。

3. 世界文化遺産登録に向けた取組み

県では、「立山砂防」の世界文化遺産登録に向けて、文化庁から示された課題を踏まえながら、大きく3つの取組みを進めている。

一つは、立山砂防の顕著な普遍的価値の検証・確立であり、二つ目は砂防施設の重要文化財指定、三つ目は世界遺産登録に向けた県民意識・機運の醸成である。

顕著な普遍的価値の検証・確立

県では、立山砂防が世界に広まった近代砂防技術の一大中心地であることやその文化的価値を広く紹介するとともに、日本の砂防技術の国際的な広がりとその貢献について広く知見を得るため、平成21（2009）年から毎年、国内外の砂防の専門家や世界遺産の有識者等を招聘し、フォーラムやシンポジウムを開催している。

立山砂防国際シンポジウム2017開催状況（H29.10 砂防会館）

専門家や有識者の方々には来県に併せて立山カルデラ等を実際にご覧いただいたうえ、講演やパネルディスカッションにおいてご意見を頂戴した。

これまで専門家からは「人間の創造的才能を表す傑作」といった立山砂防に対する高い評価とともに、世界遺産の登録基準や構成資産、申請範囲などに関する活発な意見が出され、本県の取組みに関する有意義な助言をいただいている。

また、いただいた助言を踏まえ、県は平成24（2012）年度に立山砂防の顕著な普遍的価値に関する技術的側面からのアプローチによる調査研究に着手し、有識者のご意見をいただきながら、翌25年度に ①立山砂防は災害が多い日本で生まれた防災の総合技術である ②世界の中で日本の総合的な水系管理技術が近代における到達点である ③立山砂防が近代的な防災技術の一つの典型となっている の3つの観点から成果をとりまとめた。

こうした成果は、シンポジウムでの討議に加え、砂防学会、土木学会等への論文投稿や国内外で開催された防災関係の会議で紹介するなどPRに努めている。

国連防災会議でのブース展示（H27.3 仙台市）

砂防施設の重要文化財指定

県では、これまで国土交通省の理解を得ながら常願寺川流域の歴史的砂防施設の重要文化財指定に取り組んできた。

こうした中、昨年10月に開催された国の文化審議会において、「常願寺川流域にある本宮堰堤と泥谷堰堤を、我が国を代表する近代砂防施設として、既に指定を受けた白岩堰堤に追加し、『常願寺川砂防施設』として国の重要文化財に指定するよう」との答申がなされ、同年11月28日に正式な指定がなされた。

「常願寺川水系を一体的に治める治水対策の礎となる施設であり、我が国の治水史上、価値が高い」と評価されたものである。以下、施設の概要を紹介する。

・白岩堰堤

「白岩堰堤」は赤木正雄が計画した立山砂防の根幹をなす施設であり、昭和14（1939）年完成、本堰堤の高さ63m、副堰堤もあわせた総落差108mはいずれも我が国随一で、世界有数の高さを誇る大堰堤である。平成21（2009）年6月に砂防施設初となる重要文化財に指定されている。

大型施工機械を導入して建造され、砂防堰堤では初の耐震設計による高堰堤とコンクリート方格枠により保護されたフィルダム（土堰堤）からなる複合的砂防施設である。近代砂防施設の一つの技術的到達点を示すものとして重要であり、今なお富山平野を土砂災害から守り続ける国土保全施設として歴史的に価値が高いとされた。

・本宮堰堤

「本宮堰堤」は、常願寺川中流に位置し、平野部の手前で土砂を捕捉し災害を防ぐことを目的として昭和11（1936）年に建設された重力式コンクリート造堰堤である。その貯砂量は500万㎥で我が国最大級を誇る。常願寺川の河川改修計画に位置づけられ、河川事業で整備された点に特徴があり、近代的な施工機械を駆使し、極めて短期間（約2年）に完成した。また、水源地から河口までの土砂の流下、貯留、堆積という流出土砂量や堰堤の調節機能の研究基礎となった施設として重要な施設である。

・泥谷堰堤

泥谷堰堤（部分）

「泥谷堰堤」は、崩壊地の拡大を防ぐため、常願寺川上流の立山カルデラ内の急勾配の谷筋に昭和5（1930）年から13（1938）年にかけて建設された20基の砂防堰堤と3基の床固工、山腹工からなる砂防施設群で、このうち19基の堰堤と3基の床固工が重文指定を受けた。欧州によく見られる階段状の堰堤群と日本の伝統的な山腹工の組み合わせが効果を発揮し、いまでは堰堤が見えないほど豊かな緑に覆われており、防災とエコを共に実現した好事例といえる。

世界遺産登録に向けた県民意識・機運の醸成

国土交通省立山砂防事務所に隣接して、富山県立山カルデラ砂防博物館が立地している。県と当時の建設省が共同で建設を進め、平成10（1998）年にオープンし、今年で開館20周年を迎える。

富山県立山カルデラ砂防博物館（外観）

立山カルデラの大自然とそこで行われてきた砂防事業をテーマとしており、世界でも類を見ないユニークな博物館である。

展示や映像を使って立山カルデラを紹介する屋内博物館と、カルデラの大自然と砂防事業そのものを野外展示物と位置づける野外ゾーンから構成されている。

館内展示（カルデラ地形ジオラマと砂防工事用トロッコ）

夏場には、展示等から学んだ知識を、現地で具体的に理解していただく立山カルデラ砂防体験学習会を開催している。参加者自らが実際に現地を訪れ、自然、歴史、砂防を自分の目で確かめていただくものである。参加者からは、立山カルデラの自然に対する感動に加え、そこで行われている砂防事業とその歴史に対しての感嘆の声が寄せられている。

立山カルデラ体験学習会

この他、県では次世代を担う高校生、大学生が座学と視察を通じて「立山砂防」の世界文化遺産登録の取組みを学ぶ「世界遺産人材育成プロジェクトユースプログラム」にも取り組んでいる。

ユースプログラム（博物館視察状況）

4．今後の取組み

昨年の12月に日本イコモス国内委員会（西村幸夫委員長）が発表した「日本の20世紀遺産20選」に「立山砂防施設群」が選定されるという新たな朗報がもたらされた。

このたびの選定は、常願寺川砂防施設の重要文化財指定とともに、百年を超えて多くの人々の命を自然災害から守り続けてきた「立山砂防」の世界文化遺産登録を目指し、国をはじめ有識者や多くの県民のご支援、ご協力のもとに積極的に取り組んできた本県のこれまでの調査研究、国際シンポジウムの開催等の積み上げてきた成果が高く評価されたものと受け止めており、今後の世界文化遺産登録の推進に向けて、重要で大きな前進であると考えている。

県では、国内外の世界遺産等における類似事例との比較分析等の調査研究を行うなど、世界遺産提案書作成に向けた準備を進めるとともに「立山砂防」の魅力とその顕著な普遍的価値について、国際学会等の場でアピールすることとしている。

今年10月に富山市で「国際防災学会（インタープリベント2018）富山大会」が開催される。大会は、国内外から多くの専門家が参加される絶好の機会であることから、国土交通省をはじめとする行政機関、貴協会を含む関係団体のご協力を賜り、立山砂防の価値を国内外へ強く発信したいと考えている。

インタープリベント2018富山大会会場（富山市国際会議場）

世界文化遺産登録のハードルは極めて高いものの、世界に誇る立山砂防の歴史的施設群を中心とした「立山砂防」が防災遺産として世界文化遺産に登録されるよう、関係市町や関係団体など幅広い県民の皆様と連携・協力しながら積極的に取り組んでいく所存であり、引き続き、皆様からのご支援、ご協力をお願いしたい。

ちょっと
気になる
コーナー

台湾で最も尊敬される日本人

中越トラベル（朝日交通㈱観光部）　常務取締役　山崎康裕

台湾で最も尊敬される日本人

台湾で最も尊敬される日本人をご存知でしょうか？日本人にあまり知られておりませんが、農業利水事業の建設に多大な功績を残した八田與一（はったよいち）技師と言われております。

八田與一は、大正5（1920）年9月から昭和5（1930）年4月までの10年間をかけて台湾の南部（北回帰線付近）の嘉南平野に東洋一のダム「烏山頭（ウーサントウ）風景区（烏山頭ダム）」を造り、台湾全体の耕作面積の6分の1を占める広大な土地を豊かな土地へと変えた人物です。

與一の功績は、元台湾総統　李登輝氏の言葉で讃えられています。

「台湾に寄与した日本人を挙げるとすれば、おそらく日本人の多くはご存じないでしょうが、嘉南大圳を大正9年から10年間かけて作り上げた八田與一技師がいの一番に挙げられるべきでしょう。台湾南部の嘉義から台南まで広がる嘉南平野にすばらしいダムと大小さまざまな給水路を造り、15万ヘクタール近くの土地を肥沃にし、100万人ほどの農家の暮らしを豊かにした人です。」

與一はダムを造っただけではなく、台湾人と日本人を区別する事なく接し、台湾人と太い繋がりを構築した人物です。自分の子供を台湾人と同じ学校に通学させたり、「殉工碑」を建てる際は台湾人、日本人の区別なく名前が混じって刻まれています。現在でも與一の命日5月8日に嘉南農田水利会の主催により、墓前での慰霊追悼式が催されているくらい尊敬されている人物です。地元の学校では生徒に「烏山頭ダムと八田與一技師」の事を教えていて、生徒達には「台湾人の恩人」として知られております。

烏山頭ダム

嘉南平野と烏山頭ダム

嘉南平野は亜熱帯性気候で、1年に2～3回の収穫が出来、降水量も豊富にあります。台湾へ行かれた事がある方はご存じだと思いますが、台湾は山脈から海までの距離が短い為、雨季にはしばしば氾濫し、乾季には河川が干上がり農業を行う上で不安定な地域でした。

その為、與一は嘉南平野に安定した水供給をする灌漑整備を行い、台湾で1番の穀倉地帯にすることを考え、台南市の北を流れる官田渓の上流の烏山頭に当時東洋一の規模のダムを造り、嘉南平野全体に給排水路を張り巡らせました。

建設されたダムは満水時1億5,000万トンで、黒部ダムの75％に相当する規模です。給排水路の総延長1万6,000kmは地球を半周する長さとなっております。

現在、烏山頭ダムには「八田技師紀念室」、「八田與一紀念園区」などの観光スポットもあり、ダムを見下ろす北岸には「八田與一　外代樹之墓」と刻まれた日本式の墓が建っています。墓前には作業着姿で腰を下ろし、片膝を立てた與一の銅像が建っており、この墓も銅像も昭和6年に地元の農民が作ったものです。

烏山頭ダムへは、台湾南部の台南市から北へバスで1時間30分位で到着致します。

八田與一像

八田與一紀念園区

台湾南部観光

台湾南部の観光地は、烏山頭ダム周辺だけではありません。台南地区北部の嘉義（チアイー）はかつて木材で栄えた街で、木材関係の観光地「阿里山森林鉄路車庫園区（森林鉄道の展示館）」や「檜意森活村（元嘉義林場官舎跡）」、嘉義公園には「孔子廟」、「忠烈祠」、「嘉義市史蹟資料館」などがあります。嘉義のグルメは「鶏肉飯（どんぶり飯に七面鳥の肉をのせてタレをかけた物）」が有名です。

嘉義市史蹟資料館

嘉義名物 鶏肉飯

台南には「赤崁楼（オランダ人が建設した赤レンガ造りの台南最古の建築物）」、「台南孔子廟」、「国立台湾歴史博物館（時代ごとの建物や蝋人形を展示）」、林百貨（日本人が経営していた、台湾で初めてエレベーターを備えた百貨店）などがあります。

赤崁楼

林百貨

台南地区で有名な観光地が、南部最大の都市 高雄です。最も有名な観光スポットとしては「龍虎塔」がある蓮池潭になると思います。龍の口から入り、虎の口から出ると悪行が帳消しになる言われていますが、効果の程は微妙です（経験者談：何度も行きましたが…）。他にも中国の杭州にある西湖を模した「澄清湖」や、絵柄唐傘の産地 美濃などがあります。

最南端の墾丁（ケンティン）は台湾最大のビーチリゾートで、高雄からバスで3時間程です。

龍虎塔

澄清湖

台湾の北部と東部

台湾北部の台北は、皆様のご存知の観光地が沢山ありますので今回は省略致しますが、東部は花蓮が中心都市です。山間に入りますと「太魯閣渓谷」があり、圧倒的なスケールの大理石の断崖絶壁が続く台湾最大の景勝地と言われております。アジア最大級の海洋テーマパーク「花蓮海洋公園」も見ものです。

太魯閣渓谷

台湾へのアクセス

皆様の近くの空港から台湾への直行便があります。富山空港、小松空港、新潟空港から直行便が就航しています。運航の曜日や時間などは各空港のホームページをご参照ください。地方空港は「毎日就航していない」「時間が合わない」など言われますが、大都市の空港より利用しやすい面もありますので、日程や観光箇所を厳選して楽しいご旅行を計画してみてはいかがでしょうか。

【画像提供】 台湾観光局

お知らせ

北陸地方整備局との意見交換会の概要

〈対外活動部会〉

日　時：平成29年11月30日（木）

会　場：ラマダホテル新潟

出席者　北陸地方整備局：渡辺企画部長、倉重地方事業評価管理官、鈴木技術調整管理官、
山岸技術開発調整官、渡部河川情報管理官、川岸道路情報管理官、
松永技術管理課長

協会北陸支部：寺本支部長、大平・山本・新家副支部長、運営委員、監事、
対外活動部会員、総括・技術・広報部会長、事務局長

◆挨拶

○渡辺企画部長

・働き方改革について、工事は５年の猶予があるが、建設コンサルタント業の長時間労働の抑制は待ったなしの状況である。受発注者がどうすれば少しでも労働環境が良くなるのかをしっかりと考えていく。
・平準化について、工事では国債、翌債、繰越等を活用しているが、業務ついても平準化の案を作成して取り組み始めたところ。協会の皆様方からもご意見を伺っていきたい。
・i-Constructionについて、特に今年度からCIMを重点に取り組んでいるが、測量・設計から施工、維持管理にどのように繋げていくかが重要であり、各段階の進め方について検討するのでご協力をお願いしたい。
・何れも受発注者間のコミュニケーションが重要と考えており、業務を進める上では、昨年度作成した「良くわかるシリーズ」や４者会議等で対応しているが、いろいろな分野･場面で意見交換しながら具体的な対策に結び付けていきたい。

○寺本支部長

・「働き方改革」に早急に対応する必要がある。受発注者協働による平準化等の就業環境の取り組みをお願いしたい。
・技術力を重視した契約方式が定着しているが、そのうち半分を占める総合評価方式の落札率が調査基準価格付近に集中し、価格競争の平均落札率より低い状況となっている。技術点差を大きくする等の技術評価が適切に行われる仕組みが必要と考える。
・安定的、持続的な経営基盤の確保のために調査基準価格の設定率が上限に達していることから予定価格の引き上げをお願いしたい。

◆意見交換

1. 履行期限（納期）の平準化

（1）標準履行期間の設定・繰越しの柔軟な対応

業務執行上の問題改善を目的に、業務内容に応じて“設計条件確定までの間”、“設計履行期間”、“照査期間”を確保した「標準履行期間の設定による必要履行期間の確保」、やむを得ない場合の「工期の繰越」の継続的な対応を要望します。

【回答】

・平準化については、昨年度から繰越等を活用しながら取り組んでいる。土木コンサルタント業務では、H27からH28への繰越件数が５%、H28からH29が15.5%と倍増している。

（2）年度末納期と技術提案書作成時期の分散化

年度末納期と技術提案書作成時期の重複解消を目的に、プロポーザル方式・総合評価落札方式の公示・技術提案書提出時期の分散化を要望します。

【回答】

・平準化に向けた発注のパターン化を検討し、業務の特性に応じて計画的に発注時期を分散化する取り組みを始めており、改善を図っていきたい。

2. ICT技術（CM・三次元情報管理等）の導入・活用

地域コンサルタントのICT技術向上を目的に、CIM活用試行業務の受注機会拡大および、二次元詳細設計業務で業務内容に含まれるBOX詳細設計等を受注者提案で三次元設計に設計変更できる仕組み等について検討していただきますよう要望します。

【回答】

・CIM導入ガイドラインが平成29年３月に公表され、今年度、北陸地方整備局では、橋梁、トンネル、河川構造物等23件の設計業務で試行している。
・CIM導入による効率化については、施工段階で使い易いものにすることが全体の生産性を上げることになるので、それを踏まえて設計していただきたい。
・設計そのものも、三次元化することで生産性を上げる必要があり、今年度、従来の二次元設計との比較検証を実施したいと考えているので、ご協力をお願いしたい。
・二次元設計を受注者提案で三次元設計に変更する提案については、契約後、発注者に協議していただければ変更の対象とする制度があるので、積極的に申し出ていただきたい。
・CIMの活用・普及に向け、今年度、CIM事例集を作成しており、今後も事例集の充実に向けてご協力いただきたい。

3. 品質確保

（1）条件明示チェックシートの活用・継続的改善

設計条件は、コンサルタントで確認・設定が可能ですが、業務条件は発注者からの提示が必要です。業務条件の提示の遅れは、業務遅延による年度末の業務集中とそれに伴う品質低下要因となりますので、「条件明示チェックシート」の活用徹底と効果的運用のための継続的改善を要望します。

【回答】

・業務発注段階では、公示前の「条件明示検討会」で条件明示チェックシートを活用し、設計条件等を明確に特記仕様書に記載するよう周知徹底している。問題があれば実態を教えていただきたい。

（2）詳細設計の照査

段階照査を確実に実施するための「適切な履行期間の確保」「条件明示チェックシートの改善・活用促進」を要望します。

【回答】

・業務履行段階では、「業務品質向上会議」で業務スケジュール管理表を活用したマンスリーチェックを行い、受発注者間で進捗状況や予定を共有することにより、手戻り、手待ちを生じさせないよう引き続きコミュニケーションを図っていきたい。
・条件明示チェックシートについては、活用いただく中で改善点等を教えていただきたい。

（3）詳細設計における施工計画の目的、条件、成果の明確化と費用計上

各工種の詳細設計における施工計画の標準歩掛と、求められる検討の作業量が乖離している事例が多く、その場合は十分な検討が出来ない可能性もあり、品質面で課題が残ります。このため、「歩掛に見合った施工計画の検討内容の明確化」を要望します。

【回答】

・詳細設計における施工計画は、共通仕様書に記載のとおり、目的物を施工する際、発注者の設計積算に使用するために作成している。
・昨年度作成した「良くわかる設計と工事の図面」でも施工図は施工者が作ることになっている。

・ご提案のような案件が無いよう周知する。やむを得ず設計者に検討をお願いする場合は、適切な費用を計上するよう指導する。

（４）構造物の点検業務における歩掛改善について

構造物の点検業務は、作業の段取りや管理に多くの時間を要しており、それが現場作業の安全に大きく影響する実態を踏まえ、「現場管理」「安全管理」を見込んだ歩掛への見直しを要望します。

【回答】

・構造物の点検業務については、現在「現場管理」「安全管理」の歩掛はないが、「作業の安全確保に必要な人員」や「安全施設」については必要に応じて精算変更することとしている。
・北陸地方整備局では、今後増加する点検・診断業務について、昨年度から「当初設計から安全に係る適切な費用を計上し、安全管理や安全対策の充実を図る業務」を試行している。
・引き続き試行を継続すると共に、歩掛の改定については本省に伝えていきたい。

4. 入札契約に関する事項

（１）業務発注時の資料閲覧の負担軽減

プロポーザル・総合評価業務の発注時における資料閲覧は労力がかかり非効率なため、参加者に対し閲覧資料のデータ提供による閲覧を可能にしていただけますように要望します。

【回答】

・当該業務に係る技術提案書の作成にあたり、報告書等の既存資料を事前に確認することで、より具体的な提案が得られる可能性がある場合に「行政サービスの一環」として閲覧を実施しており、ご理解いただきたい。
・具体的に「労力がかからない資料閲覧」をする場合、例えば「ホームページ上での閲覧」が考えられるが、それに伴いコストの発生が想定されることから、それらも踏まえて考えていきたい。

（２）ダイバーシティ推進型業務の試行について

平成29年度より北陸地方整備局で試行している「ダイバーシティ推進型業務委託」の発注状況と今後展開予定についてご教示願います。

【回答】

・今年度試行を開始し、８件を予定しており、発注済みが５件、公示中２件、公示予定１件である。
・今年度の試行結果を踏まえ、改善すべきところは改善し、活用が有効な業務について試行を拡大して行きたい。

5. 人材育成・確保の環境整備

（１）ウイークリースタンス

ウイークリースタンスの取り組みは効果があるとの意見が多いことから、直轄業務での全面展開、県市町村への拡大普及を図るため、ブロック発注者協議会での取組を要望します。

【回答】

・直轄では、全ての業務を対象に「ウイークリースタンス」に加えて「ワンデーレスポンス」に取り組んでおり、引き続き実施していく。
・県市町村への拡大普及については、「良くわかる設計業務等の品質確保」をホームページでも公開している。また、今年９月６日の本部との意見交換会の際も各県、新潟市に周知しており、今後も発注者協議会などいろいろな機会に周知拡大していきたい。

（２）若手・女性技術者活用に関する発注者との共通認識の醸成

北陸地方整備局と建コン北陸支部で昨年実施した「管理技術者懇談会」と「女性コンサルタント技術者懇談会」の継続実施と「若手技術者懇談会」の新規実施を望みます。

【回答】

・受発注者がしっかりコミュニケーションをとって意見交換することは重要であると認識しているが、意見交換をすることが目的ではなく、意見交換をした結果を具体的な改善に繋げる必要がある。
・ご提案の「若手技術者懇談会」については、既存の2つの懇談会も含め、「どのようなご意見をいただいて、どうしたら良いのか」を事前にご相談させていただきながら取り組んでいきたい。

お知らせ

新潟県土木部との意見交換会の概要

〈対外活動部会　新潟地域委員会〉

日　時：平成29年10月25日（水）　15：00～17：00

会　場：ラマダホテル新潟

出席者　新潟県：美寺土木部長、鈴木技術管理課長、丸山道路管理課長、金子道路建設課長、棚橋河川管理課長、
本田河川整備課長、坂井都市政策課長、吉田都市整備課長、松川下水道課長、
長谷川新津地域整備部長、宮野三条地域整備部長、大野長岡地域整備部長、
高橋南魚沼地域整備部長、新部上越地域整備部長、藤井佐渡地域整備部長
北陸支部：大平副支部長、坂上運営委員長、青木総括部会長、中俣新潟地域委員長、渡邊技術部会長、
佐々木広報部会長、新潟地域委員:山岸、舩谷、齊木、大塚、折笠

◆挨拶

○大平副支部長

・これまで意見交換会では有意義な意見交換がなされ、我々の要望や課題などをご理解いただき、地域調達や繰越制度の活用、片務性の解消等を着実に進められた事に感謝。
・今年度は特に業務の平準化を要望。
・平準化の取り組みは既に進められていますが、依然として年度末の業務集中による長時間労働の問題の解消は重要課題。
・「働き方改革関連法」が準備されており、施行されれば規制が厳しくなり、大きな経営リスクをかかえることにもなりかねないため、企業としても待ったなしの対応が必要。
・我々の業務はマンパワーに頼っており、単なる長時間労働の抑制は、生産性の低下を招く恐れがありますが、業務の平準化が進めば年間を通じて仕事を効率的にこなすことが可能となり、逆に生産性の向上が可能。
・このことをお汲み取り頂き早期発注や繰り越しの柔軟な活用、債務負担行為の活用に一層の取り組みを願う。
・今後とも発注者の良きパートナーとして尽力する所存。

○美寺部長

・７月豪雨災害の復旧に当たりご協力いただき感謝。現在、査定中であるが、採択に向けて順調に進行中で、設計を皆様方から短期間で行っていただいた事に感謝。
・本日は、皆様から挙げていただいた「担い手確保」「品質確保」のほかに、平準化の問題についても意見交換を願う。
・9月からコンクリート工の生産性向上について、三つのガイドラインの運用を開始したので、設計段階から適切な活用を願う。
・ハッピーパートナー制度は担い手確保に繋がる施策であり加盟を願う。

主な意見交換内容

（１）魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の確保・育成のための環境整備

「建設業の時間労働規制の見直しに関する資料」、「29年度発注予定建設コンサルタント業務の月ごと納期の割合の見込み（10/18現在）グラフ資料」などの資料を提示し、環境整備が喫緊の課題であることを説明し、特に業務の平準化の取り組みを要望した。

県土木部からは、「残業の多い時期はいつか」「残業の業務内容は何か」といった問いもあったが、繰越制度の柔軟活用、債務負担設定による早期発注で年度末工期の集中を低減させるといった「平準化は意識を持って取り組む」と回答がなされた。より魅力ある職業の確立に向けて、「社会資本整備の必要性」やこの職業が「将来に希望・夢がもてるよう」県のホームページでの掲載を工夫することを要望。

（２）品質の確保・向上

任意仮設の取り扱いにおいて、設計者と施工者の間でトラブルになるケースも見られることから、北陸地方整備局で纏められた「良くわかる設計と工事の図面」を提示し、任意仮設と指定仮設の取り扱いの明確化と適正対応に理解を求めた。

県土木部からは仮設の取り扱いについては地域機関を指導しているが引き続き徹底するよう指導する旨の回答があった。

品質確保の上で三者協議が有効であり積極的な活用を提案した。

県土木部からは効果があると考えており、今後とも積極的な活用を指導するとの回答がなされた。また、県では以前から、品質確保の向上に向けた（俗称）「6つの取組み」を実践していることが説明された。

閉会あいさつ

○坂上運営委員長

平準化の問題や担い手確保の問題について活発な意見交換が出来たことに感謝申し上げます。今日出た課題の他に、発注者と受注者の間のコミュニケーションの問題が有ると思っています。特にミスが発生した場合など、裏にはコミュニケーション不足が有ると感じています。担い手確保の問題では協会も発注者と協力してインターンシップや出前講座等を行っていますが、高校生の場合は本人の他に父兄の理解を得ることが重要と感じています。

お知らせ

新潟市との意見交換会の概要

〈対外活動部会　新潟地域委員会〉

日　時：平成29年11月15日（水）　15：00～17：00

場　所：ラマダホテル新潟

出席者　新潟市：本多土木部長、朝妻財政部長、大勝都市政策部長、木山下水道部長、
本庁関係課長及び関係機関所属長13名
協会北陸支部：坂上運営委員長、青木運営委員、渡邊技術部会長、佐々木広報部会長、
中俣新潟地域委員長ほか同地域委員等7名、松浦事務局長

◆挨拶

○中俣委員長

・日頃から当協会の活動に対して、ご支援ご協力をいただき感謝。
・今回の意見交換会は、第11回目となり、受・発注者でお互いの立場を認識しながら意見交換を実施し、提案した課題等に対して、前向きに取組んでいただき感謝。
・業務の平準化は、委託業務の品質確保、生産性向上及び就業環境の改善、担い手確保のためにも非常に重要な課題と捉えており、その対応策として早期発注、繰越制度の柔軟な活用、債務負担行為の活用などの取組みを期待。
・建設コンサルタントが魅力ある職業として確立していくには、先ず就業環境の改善が必要。
・働き方改革関連法案とあいまって、委託業務の適正工期のスケジュール管理のため、業務の平準化は待ったなしの課題。
・我々地域を拠点とする建設コンサルタントは、皆様方の業務のパーツパーツを受け持ち、インフラの整備や公共の福祉向上などに寄与する所存。

○本多土木部長

・日頃から新潟市の街づくりにご協力をいただいていること、また災害時の応援協定締結をいただいていることに対して感謝。
・政令市となって10年を過ぎ新しいスタートをしており、新潟駅の橋上化事業も進んでおり、来年の春頃には新幹線と在来線が同一ホームになる予定。また、来年には新潟港が開港150周年を迎えるにあたり、みなとまち新潟のブランド力の向上に様々なことを準備中。
・本日の主議題である「働き方改革」については新潟市としても重要であると認識。
・担い手の確保、生産性の向上について、工事発注で試行的に取組み中。建設コンサルタント業務でも、3年前の品確法改正のなかで、発注者の責務が明記。
・適正な工期確保など様々な議題について、意見交換でより良い方向にいくことを期待。

主な意見交換内容

（１）「働き方改革」への対応について（就業環境改善に向けて）

①発注・納期の平準化の取り組みとその成果
②ウィクリー・スタンス等
③業務省力化

「働き方改革」は、協会としても最も切実で喫緊課題。我々の業界は毎年、12月から年度末の３月にかけて、多くの残業に頼っている現状がある。この課題は、発・受注者がお互いに協力して業務のやり方等を大きく変えていく取り組みが重要であることを説明し、上記①、②、③の取り組みの現状と今後の方針などについて伺った。

特に、③業務省力化は、生産性向上の観点から、見積り依頼及び紙入札での指名競争入札の現状の問題を書面で提示して改善を要望。

・見積り書の提出と指名から入札までの期間の適正確保（１週間以上）
・見積り依頼書、指名通知書の受け取り方法の改善（FAXやメールの活用）
・入札参加の意思確認の適正対応（設計図書で業務内容を確認後に意思表明すべき）

※要望事項は、理解が得られ改善に向けて取組む旨回答。

（２）円滑な業務の実施

受・発注者間の情報の共有、「設計と工事の図面の取り扱い」

「設計と工事図面の取り扱い」は、北陸地方整備局の「良くわかるシリーズ」の関係資料を提示し、取り組み現状及び今後の方針を伺った。

任意仮設と指定仮設の図面の考え方や責任区分は、承知しており、任意仮設で修正が必要な場合は、発注者責任で修正する、また研修等で今後も周知徹底したいと回答。

（３）入札契約制度

設計業務委託の落札率の現状と過去５年間の推移、最低制限価格変動制（活用の狙い、実績、その成果）

最低制限価格変動制の現状認識と今後の方針などを伺った。

変動制は固定制に比して著しく不都合が生じているとは考えていないと回答。

お知らせ

平成29年度 橋梁現場見学会
上信越自動車道 4車線化事業
滝寺第二橋／二俣川橋 上部工事

〈技術部会　橋梁委員会〉

1. はじめに

今年度の橋梁現場見学会は、協会員の総合的な技術力向上と見識を広めることを目的として、9月15日（金）に実施されました。

滝寺第二橋 床版施工状況

今回の見学会は、上信越自動車道の4車線化事業に伴う、2期線橋梁（滝寺第二橋、二俣川橋）における上部工事の現場を訪問しました。

現場は、1期線（暫定2車線）が供用中であること、また、1期線橋梁（上り線）と2期線橋梁（下り線：今回施工）が近接した状況での上部工事となっており、制約が多く限られたスペースでの架設が行われています。

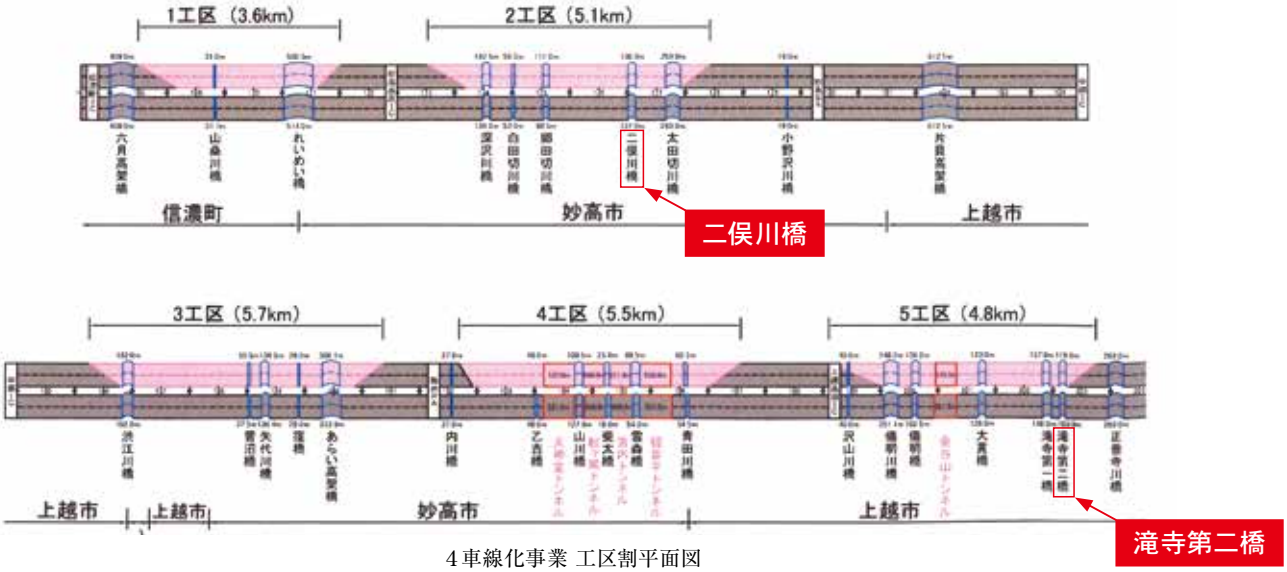
2. 4車線化事業の概要

東日本高速道路株式会社新潟支社では、「上信越自動車道（信濃町IC～上越JCT）」の4車線化事業が進められています。4車線化により **①交通集中渋滞の緩和 ②対向交通への飛出し事故防止 ③事故・故障車による通行止の軽減 ④冬期の円滑な交通確保 ⑤維持管理性向上 ⑥平行する一般国道18号等との連携強化** 等の整備効果が見込まれています。

路 線 名：関越自動車道上越線
事業区間：信濃町IC～上越JCT間（延長37.5km）
拡幅工事延長24.7km
（土工19.5km、橋梁3.1km、トンネル2.1km）
車 線 数：4車線（暫定2車線区間の4車線化）
設計速度：80km/h（信濃町IC～中郷IC間）
100km/h（中郷IC～上越JCT間）
設計荷重：B活荷重

○滝寺第二橋
橋長：L=119m（37.0m+45.0m+37.0m）
形式：鋼3径間連続ラーメン合成2主鈑桁橋

○二俣川橋
橋長：L=138m（69.0m+69.0m）
形式：PC2径間連続ラーメン箱桁橋



4車線化事業 工区割平面図

3. 工程

上越高田ICの駐車場に集合し、マイクロバスで滝寺第二橋、二俣川橋へと順次移動し現場見学を進めました。

なお、マイクロバス移動中の車内にて、講習会の目的・概要、上信越自動車道4車線化事業の概要説明・質疑応答等を行いました。

13:15　集合、車移動
13:30　滝寺第二橋　現場見学
15:30　二俣川橋　現場見学
17:30　解散

4. 全体説明

現場見学に先立ち、移動中の車内にて、東日本高速道路株式会社新潟支社信越工事事務所 信濃妙高工事区の佐藤工事長と技術課の伊藤課長から、上信越自動車道4車線化事業の全体概要と各工区の主な橋梁に関して、構造的特徴や工事の進捗状況について説明を受けました。

5. 滝寺第二橋　現場見学

現場状況は、主桁がクレーンベント架設を完了しており、場所打ちPC床版の鉄筋組立状況を見学することができました。現地では、朝顔足場上に移動し、床版施工現場に近接して鉄筋の組立状況等を確認することができました。

また、路線の特徴として、凍結防止剤散布による塩害対策で、床版かぶりは70mm（塩害対策区分Ⅰ相当）を確保した上で普通鉄筋を使用し、特に影響を受けやすい壁高欄の鉄筋はエポキシ鉄筋（写真：緑色の鉄筋）を使用していました。

滝寺第二橋の見学状況

6. 二俣川橋　現場見学

上部工の張出し架設状況を見学することができました。供用中の上り線橋梁との施工時離隔が非常に小さく（400mm程度）、移動作業車を改造して対応していました。

現地では、橋脚に設置されたエレベータで橋面上まで移動し、移動作業車やPC鋼材定着具の設置状況等の確認、さらに、主桁先端部から箱桁内部へ移動し、箱桁内部の仕上がり状況や中間支点上の隔壁構造等を確認しました。

本橋梁でも滝寺第二橋と同様に塩害対策として、壁高欄にはエポキシ鉄筋を使用していました。また、冬季積雪時の荷重を加味した設計がなされていると説明がありました。

また、二俣川橋ではPC建協北陸支部の方々と合流し、活発な意見交換も行うことができました。

二俣川橋 移動作業車の見学状況

二俣川橋 箱桁内部の見学状況

7. おわりに

今回は、供用中の上り線橋梁が近接する状況での厳しい施工条件の現場であり、近接施工、床版施工及びPC上部工施工時の留意事項や設計時に配慮すべき事項等に関して多くの質疑応答が行われ、大変有意義な見学会であったと感じました。

この見学会を行うに当たり、ご多忙の中ご協力を賜りました、東日本高速道路株式会社新潟支社信越工事事務所、（株）横河住金ブリッジ、昭和コンクリート工業（株）、PC建協北陸支部の関係各位に心より感謝申し上げます。

お知らせ

平成29年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会

〈技術部会　品質向上委員会〉

1. 開催の背景と目的

建設コンサルタントを取り巻く社会情勢の様々な社会情勢の変化を踏まえ、近年では技術者の継続教育（CPD）に対する要請が高まりを見せています。このような情勢を受けて業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じてお互いの技術研鑽を図ることを目的として開催したものであります。

2. 開催概要

（1）対象業務と専門技術分野

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象として平成27、28年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域（新潟県・富山県・石川県）における国・地方自治体等に関する業務・研究としました。

また、専門分野は「河川、砂防及び海岸・海洋」「道路」「都市計画及び地方計画」「地質」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」の８部門としました。

（2）選考方法

①第１次審査

平成28年４月初旬から同年５月19日までの間で参加者を募集したところ22編の応募がありました。審査は北陸支部選考委員会にて新規性、市場性、論理性の観点から厳正なる審査を実施し、８編を選考しました。

②北陸支部業務・研究発表会（第２次審査）

第1次審査で選考された８編を対象として「北陸支部業務・研究発表会」を新潟市の興和ビル10F会議室にて開催しました。

台風５号の影響で順延となり２ヶ月遅れの開催となりましたが、当日は143名の方に聴講頂きました。

発表論文選考結果

テーマ	発表者
PCケーブルが破断した国道18号妙高大橋の維持管理について	大日本コンサルタント（株）　北陸支社　新潟事務所　技術室 ○伊藤裕章、登石清隆
軟弱地盤に架かるシリンダー型ダンパーを用いて多点固定構造とした連続橋の詳細設計	開発技建株式会社　構造部 ○吉村訓和、近藤　治、品田雅人
ドローンを活用したハクチョウ類の行動調査	エヌシーイー株式会社　地域マネジメント部 ○若尾明弘、鈴木義弘
新潟市におけるラウンドアバウト（環状交差点）の導入検討と整備効果の検証	株式会社キタック　技術第二部　道路グループ ○渋谷卓見、森　将恒、原田　亘、佐藤育実、齋藤佐央里、安藤大和
道路への飛砂防止対策（３列土塁対策事例） －効果的維持管理を目指して－	株式会社　国土開発センター　環境事業部　環境１部 ○辰橋浩二、平野博範、本　憲太郎、澤　康雄
アンサンブル降雨予測を活用した浸水予測システムの実証研究	株式会社新日本コンサルタント　設計計画本部　水環境部水工系グループ ○城岸　巧、阿曽克志、荒井秀和、羽黒厚志、中村元紀
能美根上スマートIC建設地における保安林解除に伴う代替施設計画	株式会社日本海コンサルタント　社会事業本部　地域環境部 ○松矢裕一郎、小倉芳治、西本憲正、中　正文
スマートフォンを活用した冬期交通障害情報配信の試行実施について	エヌシーイー株式会社　総合計画部 ○福田幸長、岩渕和有、古俣博之

（○は発表者を示す）

発表会の様子１　支部長挨拶

発表会の様子４　業務・研究発表の様子

発表会の様子２　聴講の様子

審査委員総評の様子 黒田委員

発表会の様子３　業務・研究発表の様子

審査委員総評の様子 伊藤委員

審査員は審査委員長として新潟大学の佐伯教授、後援をいただいた北陸地方整備局、新潟県から各1名、建設コンサルタンツ協会北陸支部から支部長、技術部会長の計5名で審査を実施しました。

審査は論文、プレゼン等の観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞、奨励賞、審査員特別賞の3論文を選考しました。

審査委員氏名	所属
審査委員長 佐伯竜彦	新潟大学　工学部 社会基盤工学プログラム　教授
審査委員 黒田勇一	国土交通省　北陸地方整備局 環境調整官
審査委員 伊藤　聡	新潟県　土木部　技術管理課 工事検査室　土木工事検査監
審査委員 寺本邦一	(一社) 建設コンサルタンツ協会 北陸支部　支部長
審査委員 渡邊雅樹	(一社) 建設コンサルタンツ協会 北陸支部　技術部会長

（3）大学との連携

本発表会は、新潟市を会場としたことから新潟大学、長岡技術科学大学を対象に学生講演を依頼しました。

両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表していただきました。

演　題：乾燥条件および温度履歴が
エトリンガイト構造内の水分状態に及ぼす影響

発表者：新潟大学大学院　自然科学研究
修士2年　野澤里渚子

学生発表の様子1

演　題：長岡まつり花火大会における迂回施策の検討

発表者：長岡技術科学大学　都市交通研究室
修士2年　須賀晶彦

学生発表の様子2

また、審査委員長を務めて頂いた新潟大学の佐伯教授からは審査だけでなく、基調講演も行っていただきました。

演題：薄板モルタル供試体を用いた
ミクロ塩害環境の評価

基調講演の様子

3. 審査結果

表彰された3論文・発表者を示します。

【支部長賞】

軟弱地盤に架かるシリンダー型ダンパーを用いて
多点固定構造とした連続橋の詳細設計

発表者：吉村訓和
開発技建株式会社　構造部

発表の様子

【奨励賞】

道路への飛砂防止対策（3列土塁対策事例）
－効果的維持管理を目指して－

発表者：辰橋浩二
株式会社国土開発センター
環境事業部　環境1部

発表の様子

【審査員特別賞】

ドローンを活用したハクチョウ類の行動調査

発表者：若尾明弘
エヌシーイー株式会社
地域マネジメント部

発表の様子

4. おわりに

今回、台風5号の影響ではじめて発表会が順延となり、聴講者が集まるか心配しておりましたが、過去最多の方に聴講頂き、盛大に執り行うことが出来、この場をお借りし感謝申し上げます。

また、業務・研究発表会開催にあたり、北陸地方整備局、新潟県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、ご多忙中にもかかわらず、多大なご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございました。

来年度も開催する予定となっております。技術研鑽の場として来年度も多くの応募を期待しております。

今後とも、皆様からのご協力賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

表彰式の様子1

表彰式の様子2

お知らせ

「出前講座」県立新潟工業高等学校 道路計画概論

〈技術部会　道路委員会〉

1. はじめに

新潟県立新潟工業高等学校では、土木科2年生の授業において土木施工や地質、材料等の基礎知識一般のほか、「道路設計演習」として平面図や縦断図、横断図等の図面作成を行っている。そこで、学校側から、より深く道路設計を理解し興味を持ってもらうにはプロフェッショナルである建設コンサルタント技術者から指導して欲しいとの要請があり、協会としても「建設界の担い手確保・育成」の一環として、平成26年度より出前講座を行っている。

2. 平成29年度の実施概要

（1）コンセプト

平成27～28年度のござれや阿賀橋見学では、「実際の現場で説明を聞きながら回れて良かった」という声のほか「橋を支えているのはゴムだと分かった」（橋梁の支承）、「一度に全てを作っているわけではなく何回かに分けて作っているのに驚いた」（暫定整備）等の構造や道路整備の工夫に関するアンケート回答があった。先生からは、見学を通して「先生は、一般的に橋梁の縦断は中央が高いことを知ってますか。」と訪ねる生徒もおり、当然と思われるような些細な工夫・情報も織り交ぜてもらうように、また新しい技術も見聞きできると良い等の要望があった。

そこで、本年度は、以下の趣旨により企画した。

趣旨①完成・開通している道路がどのように造られているか知るため、工事中箇所も見学。その際、工事概要だけではなく、事業の必要性や設計の考え方も学ぶ。
趣旨②整備計画策定・設計・施工の工夫を学ぶ。
趣旨③最新技術動向を学ぶ。
趣旨④建設資材（材料）、機材を学ぶ。

（2）見学・座学の概要

出前講座は、1日の全授業時間（9：00～15：33）を割り当てて頂き、4箇所の見学及び座学を行った。

対象：県立新潟工業高等学校　2年生　40名
日時：平成29年10月13日　9：00～15：33

見学：①新潟中央環状道路（升潟地区）　※工事中
②新潟中央環状道路（板井地区）　※開通
③白根バイパス（戸頭地区）　※開通
④白根バイパス（保坂地区）　※工事中
座学：①道路設計概論、田上町ラウンドアバウト
②建設コンサルタントの仕事

見学箇所位置図

（3）新潟中央環状道路（升潟地区）の見学内容等

授業では、10月下旬頃から道路設計演習として平面図や縦断図、横断図等を作成する。このため、立体的に図面を見て演習できるように盛土工事中の現場として選定した。また当該現場は、新潟市のビッグプロジェクトとして鋭意整備を進めているほか国土交通省の新たな取り組み「i-Construction」の一環としてICT土工で工事していることから、特に興味深い事業である。

１）事業概要の説明

見学に先立ち、新潟市土木部 西部地域土木事務所建設課 係長 横山寛氏より当該路線の事業概要について説明を頂いた。

【事業目的・整備効果】

①新潟を強く靱(しな)やかに→都心アクセス・地域拠点間の連携と強靱化

②生命を守る→空港・救命・救助活動の30分圏域を拡大

③活力を生む→新たな物流軸の構築、地域の活性化、成長産業の育成を支援

④快適な暮らし→沿道のまちづくりを誘導、通勤など生活の利便性向上

⑤魅力をつなぐ→地域に点在する歴史・文化・観光資源をネットワーク

２）工事概要の説明

現場代理人の（株）廣瀬 高橋浩氏より工事概要について説明を頂いた。

【工事概要】

延長約580mの盛土工事である。道路は、完成するとアスファルト舗装や法面しか見えないが、自動車荷重を支えるため、アスファルトや路盤からなる舗装、その下１mの路床、その下の路体等のいくつもの層から出来ている。この現場では、路体と路床の部分に良質な土を盛る「盛土工事」を行っている。盛土は、一度に盛っていくわけではなく、一層30cm毎に敷き均し・転圧しながら盛り立てている。当該工事では、ICT土工として **①レーザースキャナーにより３次元起工測量 ②３次元設計データの作成 ③ICT対応の建設機械（ブルドーザー、ローラー、バックホウ）**を活用した工事を行っている。バックホウの見学、試乗もさせて頂いた。

ICT対応建設機械の見学・試乗の様子

３）軟弱地盤対策の説明

越後平野は、未固結の厚い堆積層からなる軟弱な地盤のため、盛土工事には軟弱地盤対策を伴うことが多い。当該現場においても例外ではなく、軟弱地盤対策として、圧密・排水を促進するためサンドマット工法、盛土載荷工法（土工部は余盛り工法（サーチャージ工法）、ボックス部はプレロード工法）を実施・予定している。現在、盛土を立ち上げているところであるが、設置されている沈下板についもて見学した。

（４）新潟中央環状道路（板井地区）の見学内容等

１）事業概要・新潟市の業務等の説明

見学に先立ち、新潟市土木部 西部地域土木事務所建設課 技師 須貝学氏より当該路線の事業概要について説明を頂いた。

２）構造物、道路整備の工夫点等の見学

施工済みの補強土壁（多数アンカー式補強土壁）、ボックス巻き込み部の補強盛土（ジオテキスタイル補強盛土工法）を見学し、概念図や設計図により構造概要を説明した。道路の工夫点として、小段や保護路肩の侵食防止や維持管理縮減を目的とした「防草コンクリート」、車道排水を目的とした「アスカーブ」、バリアフリーのための斜路（i=８%、水平区間1.5m設置）、防食を目的としたエポキシ樹脂塗装鉄筋等の説明も行った。この現場では、軟弱地盤対策として地盤を固結する深層混合処理工法、盛土載荷工法により工事したことを説明した。

補強盛土の見学の様子

（５）白根バイパス（戸頭地区）の見学内容等

当該地区は、平成27年３月に暫定２車開通した現道接続部付近にあたる。ここでは、平面交差点のほか安全・円滑な交通サービスを提供するための道路付属施設を説明した。道路付属施設は、防護柵（車両用、歩行者用）、道路標識、照明、視線誘導標、スノーポール、区画線、路面表示、道路情報板（電光式）、道路監視カメラ（CCTV）、車両感知器、交通信号機、道路情報ケーブル等である。その他、バリアフリーに配慮した歩道段差（標準５cm、横断歩道部２cm）、路肩からの降雨・雪どけ水が車道路面に流れるのを防ぐ路肩勾配折れ（片勾配区間）、蓋の破損や跳びはね防止・掃流力に配慮した円形側溝の採用などの工夫を説明した。

開通区間の見学

（6）白根バイパス（保坂地区）の見学内容等

1）事業概要の説明

新潟国道事務所 調査課長 渡邉望氏より事業目的・事業概要について説明を頂いた。

【事業目的・効果】

渋滞や交通事故、騒音などの問題解消による生活環境の改善、冬期除雪障害の解消による冬期交通の円滑性確保、他の都市計画道路網と一体なった道路網の形成による秩序ある都市の発展、路線バスの利便性向上

2）ボックス工事の見学

現在、国道を切り廻し、横断ボックスを工事中である。全地下構造の1/2が完成しており、完成したU型擁壁、ボックスを通り、矢板や切梁などの架設土留め工を見学した。（株）皆川組 鈴木聖司氏より、工事概要の説明を頂いた。

ボックス工事状況の見学

3）軟弱地盤対策工の説明

当該地区の地質状況や採用している軟弱地盤対策工（載荷盛土工法、地盤改良工法、軽量盛土工法）及び沈下量と時間の関係等を説明した。ここでは、EPS工法として実物大の発泡スチロール（2.0×1.0×0.5）を準備し、軽さ・素材感を体験した。

EPS工法資材の体験

（7）座学

1）道路計画概論

現場見学を終え帰校後、約90分座学を行った。座学では、道路構造の基本的考え方、見学した新潟中央環状道路を事例に路線選定・平面線形・縦断線形・横断計画の考え方、交差点やインターチェンジ、擁壁の工種、橋梁の縦断計画、軟弱地盤対策の工種、i-Construction等について説明を行った。また、最新技術動向として、田上町ラウンドアバウトを事例に防災性・環境面に効果の高い交差点の説明を行った。

2）建設コンサルタントの仕事

昨年までの出前講座や大学での業界説明において好評を得ている建コン北陸支部動画（第2弾）『教えて！建コンさん～Negicco Kaedeと巡る「まちの施設」in 北陸』を活用し説明した。

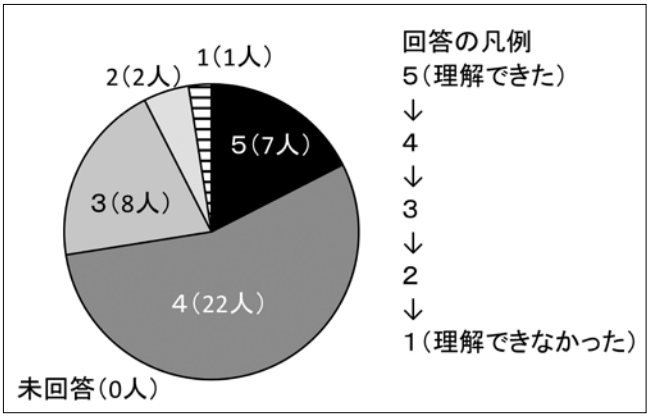
座学の様子

3. 出前講座の評価等

出前講座の有効性を把握するとともに、今後の参考とするため、終了時にアンケート調査を行った。概要は以下のとおり。

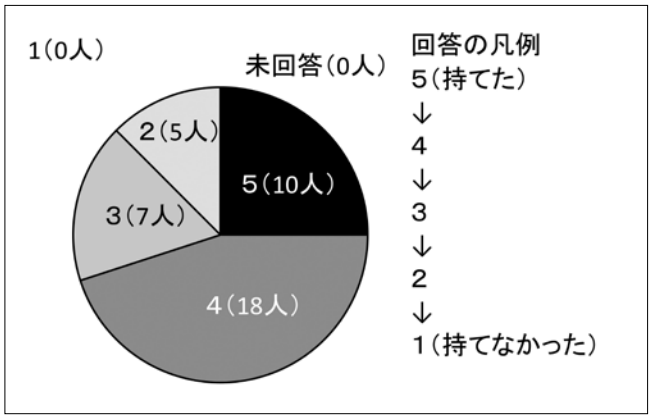
問1．本日の授業では、計画の考え方や道路構造を理解できましたか。（回答は5段階評価）

29名（73%）が4～5の評価となっており、有効性は高いと判断される。



問２．道路設計に興味・関心は持てましたか。
（回答は5段階評価）

28名（70%）が４～５の評価となっている。



問３．本日の授業全体を通して感想をお書き下さい。

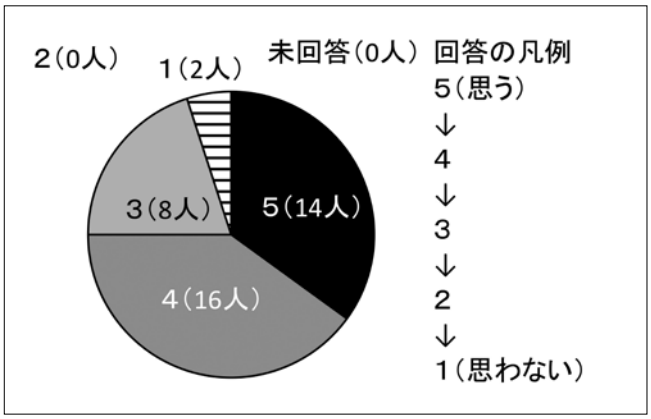
本年度は、開通箇所だけではなく工事中箇所も見学し、建設コンサルタントとして計画・設計面からの説明を行うことで、道路を「計画・造る」ことに関してより深く理解できたと考える。主な意見は、以下のとおりである。

- **実際に現場に行き、見ることができたので理解できた。**
- **説明だけじゃ分からないような場所を見学できて、とても良かった。**
- **工事中の現場を見たが、道路の下や法面の作られ方が見られるということにつながって、いい経験ができて良かったです。**
- **道路を作るための構造や道路の形などを知れて、とても興味、関心を持ちました。**
- **どのように道路が作られているのか分かりました。設計をするときは、様々なことを考えて設計していることが分かりました。例えば、冬の季節に雪が降り、除雪をするとき側溝のところを持ち上がらないように少しくぼみのある側溝にすることです。今回の見学で多くのことを学ぶことができました。**
- **新潟県特有の地盤の弱さに対する特殊な施工を見学できたことは、とても良い経験になりました。**
- **新潟の道路を作るときは、ほとんどが田んぼや畑を埋め立てて作っているので、沈下のことも考えて盛土する量を変えたり、下に水道管がある場所では沈下させることができないのでEPSを使うなど、工事をするのに様々な工夫がされていることが分かった。また、いつもは興味のないところを詳しく説明したいただき、興味を持つことができた。**
- **今日の授業全体を通じて感じたことは、まだまだ自分たちは勉強不足なんだということです。自分たちが将来の土木事業を担っていくためにも、もっと勉強しなければならないと改めて確認することができました。**

例年、土木に関する技術の中で興味のある分野についてアンケート調査をしているが、見学箇所全てが軟弱地盤対策を行っておりその説明を行ったことが影響したためか、今年度は土質調査に関して興味がある回答が大幅に増加した。（H27～H28：11名→H29：21名）

問４．土木に関する職業に就職したいと思いますか。
（回答は5段階評価）

30名（76%）が４～５の評価となっている。



問５．土木に就職したい理由は何ですか。

土木関係の就職希望が高い生徒の主な回答は、以下のとおりである。

- **自分が作ったものが地図に残り達成感があるから。**
  （ほか地図に残る理由が３回答）
- **説明を聞いたり、作り終わった道路を見たりして、やりがいを感じられました。**
- **他の職業と比べて地味だけど、その分、社会や人のためになることだから。**
- **学校で学んだことを活かしたいから。**

就職したくない回答は少ないが、否定的な回答は以下のとおりである。

- **大変そうだから。**
- **暑そうだから。においがきつい。**
- **作り終わった後の達成感を味わってみたいが、長時間仕事をしそうだし、とても疲れると思うからまだわからない。**

4．おわりに

おわりに、本出前講座においてご説明・資料提供を頂いた国土交通省新潟国道事務所、新潟市西部地域土木事務所、田上町、（株）廣瀬、（株）皆川組、（株）岡三リビック、また出前講座及び訪問・説明会等にご理解・ご協力を頂いた新潟工業高等学校先生方には御礼を申し上げます。

お知らせ

まちづくりセミナー研修報告
～静岡県浜松市～

〈都市計画委員会〉

都市計画委員会では、平成29年10月18日（水）・19日（木）の2日間、「まちづくりセミナー研修」を開催いたしました。

今回は、今年の大河ドラマの主人公である伊井直虎や徳川家康ゆかりの地であり、駅周辺の基盤整備等が積極的に進められている静岡県浜松市を訪れました。浜松市都市整備部都市計画課や産業部産業振興課の方々にご講演いただき、浜松市における都市計画の歴史や現在の取り組み、今後の方向性などを学ぶことができました。

当日は、若手技術者から熟練技術者まで幅広い年齢層から13名が参加し、冷たい秋雨をものともしない研修会となりました。2日間のプログラムは以下のとおりです。

◆10月18日（水）　勉強会及び現地見学会

14：30　勉強会（浜松市の都市計画の概要等）
場所：浜松市役所
16：00　現地視察（その1）
場所：浜松市内
18：30　意見交換会

◆10月19日（木）　現地見学会及びワークショップ

9：00　ワークショップ
12：00　意見交換会
13：00　閉会・解散

以降に、主な内容を紹介いたします。

勉強会の様子

1. 勉強会

1）浜松市の都市計画の概要

浜松市は、平成17年に12市町村が合併し現在の市域となっています。面積は1,558㎢と非常に広く、岐阜県高山市に次いで第2位です。この広大な市域のうち、約515㎢（33％）が都市計画区域であり、人口の9割以上が都市計画区域内に居住しているそうです。このように居住エリアに大きな偏りがあるなか、旧市町村を有機的に結びつけ、「自然との共生」、「都市活力の向上」、「快適な暮らし」を目指し、「拠点ネットワーク型都市構造」の構築が進められています。

・自然環境を保全・活用し、地域特性を踏まえた土地利用を図る →【自然との共生】
・都市活力を創出する拠点を形成し、地域特性を活かした産業を展開 →【都市活力の向上】
・市民の暮らしを支える拠点を形成し、これらを公共交通でつなぐ →【快適な暮らし】

2）中心市街地活性化基本計画について

浜松市は、首都圏と関西圏のほぼ中央に位置しており、江戸時代から東海道有数の宿場町として栄えてきました。また、トヨタやホンダ等の世界的企業も輩出するなど、産業分野（特にものづくり）においても発展を遂げてきました。

一方、平成に入ってからの中心市街地は、松菱百貨店（昭和初期創業の地元デパート）の経営破たんや郊外型店舗の進出により、活力の低下が見られていました。

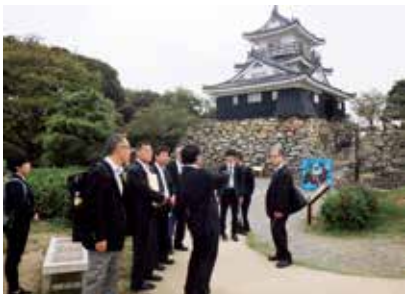
そこで、「浜松版コンパクトシティの核づくり」、「創造都市・浜松の顔づくり」、「浜松型都市経営モデルの確立」を方針とし、市街地再開発を含む中心市街地の活性化が進められています。

2. 現地見学会

勉強会後、市役所に隣接する浜松城公園をはじめ、市街地部の様々な事業等を見学しました。

①浜松城公園

中心市街地活性化基本計画に含まれる浜松城公園整備事業により整備。



②ザザシティ浜松

再開発の一環で建設された、中心部を代表する複合商業施設。

③松菱百貨店跡地

平成13年に破たんした松菱百貨店の跡地。翌日のワークショップの対象箇所。

④アクトシティ浜松

貨物駅跡地を活用した、コンサートホールやオフィス、商業施設などからなる複合施設。

⑤東地区土地区画整理事業

第一地区内のメイン歩道（アクト通り）　アクト通りにあるラウンドアバウト

浜松駅北東部での土地区画整理事業。主に官公庁街を含む商業エリアの第一地区、大学などの教育文化施設を含む商・住複合エリアの第二地区からなる。

3. ワークショップ

2日目は、参加者を2グループに分け、松菱百貨店跡地や周辺の状況を再度現地確認した後、跡地を活用した周辺地域の活性化対策をワークショップ形式で検討・提案しました。

結果としては、Aグループは周辺の既存施設の雰囲気を大切に、昼も夜も人々が憩えるオープンな空間の創出、Bグループは強力な求心力となる得る浜松の魅力（ものづくり、出世街道）を活かした複合ビルの提案でした。

同じテーマに沿ったワークショップでしたが、全く異なる方向性の提案となったのは非常に興味深く、また、都市計画における合意形成の難しさを感じるものでもありました。

ワークショップの発表の様子

以上、2日間にわたり、有意義な見学・ワークショップが行えました。特に、若手技術者の方々の積極的な意見交換は目を見張るものがありました。若手を含む北陸の都市計画技術者の相互研鑽、交流による技術者意識の向上に大きな効果があったと確信しています。来年も、若手の方々に興味を持ってもらえるような見学・研修会を計画したいと思いますので、ぜひご参加ください。

最後に、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げ、研修会の報告を終わります。

参加者の集合写真（浜松城公園）

お知らせ

平成29年度 道路・トンネル見学会

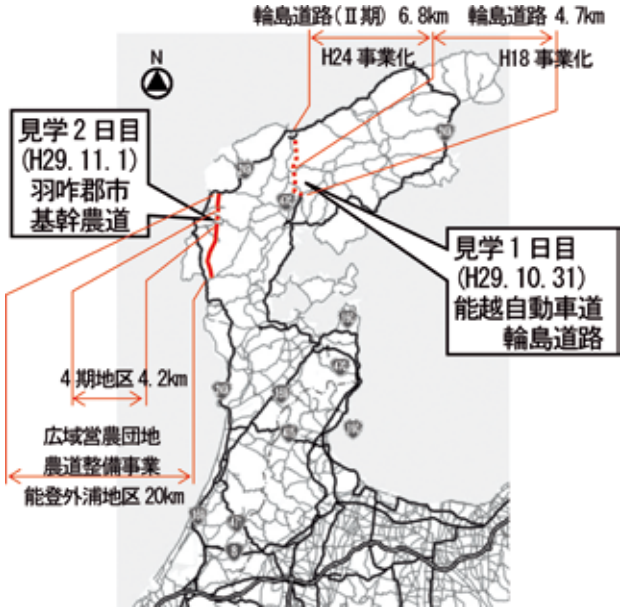
〈技術部会　道路委員会・トンネル委員会〉

1. はじめに

道路委員会及びトンネル委員会において例年企画している見学会は、石川県・富山県、新潟県から交互に見学先を選定しており、本年度は石川県において見学を行った。見学会は、暴風雨等悪天候により中止、または降雨の中で行った等の記憶がなく概ね天候に恵まれていたが、今年は台風22号の通過が懸念され1週間延期し開催することとなった。

◆見学1日目（平成29年10月31日）
見学箇所：能越自動車道 輪島道路
見学概要：ICT土工、補強土壁工事

◆見学2日目（平成29年11月1日）
見学箇所：羽咋郡市門前基幹農道
見学概要：橋梁下部工（橋脚）、椎木・北浦トンネル
参 加 者：7社13名



見学箇所

2. 見学した工事の概要

（1）能越自動車道 輪島道路

能越自動車道の最北端は、のと里山空港IC（開通済み）～三井IC（仮称）4.7kmは輪島道路として平成18年度に、また三井IC（仮称）～輪島IC（仮称）は輪島道路Ⅱ期として平成24年度にそれぞれ事業化され、鋭意、事業が進められている。このうち、輪島道路の三井IC（仮称）付近において、ICT土工及び補強土壁の座学・見学を行った。

ICT土工は、建設現場の生産性向上に向けた国土交通省の新たな取り組み「i－Construction」の3本柱の一つであり、見学した「H29・H30能越道長沢道路その6工事」（施工者：南建設（株））、「H29・H30能越道長沢道路その7工事」（施工者：（株）豊蔵組）ともにICTを活用した盛土・切土工事を行っている。

ICT土工工事の概要は、2工事ともに概ね同じではあるが、山間地の現場であるためGNSS（汎地球測位航法衛星ステム）の受信状況が異なっている。長沢道路その6工事では、GNSSの受信状況が良くないためTS（自動追尾式トランシット）によりICT施工機械が制御されている。

長沢道路その6工事の状況

TS

長沢道路その6工事に隣接する長沢道路その7工事は、標高的には高く、多少、上空視界が良い。ただし、現場内においてGNSSの受信環境が良くない箇所もあるため、GNSSとTSの両方に対応できるように工事が行われている。

長沢道路その7工事の状況

GNSS基準局

当初、TSのみで工事することも考えられたが、斜面下部の盛土等（写真）と斜面上部掘削等の高低差の大きい作業空間で複数のICT建設機械を制御すること、TSの場合にはICT建設機械とTSの間を遮らないよう注意する必要があることからGNSSの優位性が高く、一方でTSは精度の高い施工ができること等から両者に対応しているそうである。また、この現場では、生産性向上により企業の経営環境改善、賃金水準の向上を図るとともに、安全で魅力ある建設現場を目指したICT土工のほか「完全週休2日対象工事」にもなっている。

ICT建設機械の操作状況

（2）羽咋郡市門前基幹農道

当該路線は、宝達志水町森本～輪島市門前町道下に至る約61kmの広域農道で、うち57kmが開通している。現在、残る能登外浦4期地区（飯川谷～千代）4.2kmの工事が進められている。このうち千代地区の橋梁下部工及び椎木・北浦トンネル1,107mの見学を行った。

橋梁は、谷間に架かる橋長264.5m、橋台2基、橋脚6基として、橋脚高を抑えるため縦断勾配6％・凹型の縦断線形になっている。（最大橋脚高37.5m）H28年度にP6橋脚が完了し、本年度A1橋台、P2橋脚を施工している。P2橋脚は、大口径深礎杭φ8000、L=14.5mの基礎を施工し、現在その上23.9mを施工中で、最後のスパンを11月中旬頃に打設する予定で鉄筋を組んでいる。P2橋脚の現場代理人（宮下建設（株））は、施工の重要なポイントは仮設と考え、基礎の施工にあたり地元と協議し仮設道路（i=12%）を施工している。

P2橋脚の施工状況

橋梁の見学後、椎木・北浦トンネルを見学した。現在、全体1,107mのうち掘削1,051m、インバート815m、覆工531mまで進んでいる。（施工者：安藤ハザマ・宮下・石田特定建設工事共同体、工期：H27.3.18～H29.12.20（33ヶ月））このトンネルは、起点側、終点側に楡原層（泥岩砂岩互層）、中央には花崗岩（発破掘削）が分布している。楡原層が分布する起点側坑口では、日本全国でも屈指の類を見ない押し出しの強い地山で難工事となった。なお、このトンネルは、地形的な制約やトンネル延長の短縮など様々な理由があると思われるが、終点側約820mは縦断勾配6％となっている。

トンネル切羽

トンネル覆工工事

3. おわりに

見学を通して、新たな取り組みであるICT土工、安全性と品質確保に特に意識している橋脚工事、脆弱な地質と向き合うトンネル工事など全ての現場において、施工者が自信に満ち溢れ意気揚々と工事概要のご説明を頂いたことに感銘を受けた。見学にあたり、金沢河川国道事務所 輪島国道出張所、石川県奥能登農林総合事務所 土地改良部環境課の職員の皆様、また施工者の皆様には、大変ご丁寧に現場案内・ご説明を頂き心から感謝の意を表します。

椎木・北浦トンネルの集合写真

お知らせ

平成29年度 技術セミナー開催報告
「グリーンインフラを考える ～潟の再生・保全を通じてワイズユースを考える～」

〈建設環境委員会〉

1. はじめに

平成29年11月8日（水）、9日（木）の2日間にわたり、技術セミナー「グリーンインフラを考える～潟の再生・保全を通じてワイズユースを考える～」を開催しました。

この技術セミナーは、「環境」をテーマに環境技術者のみならず、幅広い分野の技術者も参加できる技術セミナーとして企画したもので、建設環境委員会として初めての取組みとなります。今回は、新潟市が取り組む潟の保全と活用を事例として、「グリーンインフラを考える」をメインテーマとして研修を行いました。

技術セミナーは基調講演、グループと討議、現地見学の3つで構成され、以下のプログラムで実施しました。

◆11月8日（水） 14：00～17：00

【基調講演】
「越後平野の変遷とかろうじて残された潟群の保全
～ラムサール都市・新潟に向けて～」
講師 大熊 孝 氏
新潟大学名誉教授
（新潟市潟環境研究所 所長）

【グループ討議】
「潟の再生と活用について」
・話題提供 新潟市環境政策課、潟環境研究所
・グループ討議 A班：「保全」について
B班：「活用」について

◆11月9日（木） 9：00～12：30

【現地見学】
1）十二潟 現地見学
・現地解説
山崎 敬雄 氏
（NPO法人いいろこ十二潟を守る会 理事長）
2）福島潟
・現地解説
佐藤 安男 氏（ビュー福島潟 館長）

以下に主な内容を紹介いたします。

2. 基調講演

「越後平野の変遷とかろうじて残された潟群の保全～ラムサール都市・新潟に向けて～」と題して、新潟大学名誉教授で新潟市潟環境研究所の所長である大熊孝氏より講演をいただきました。講演の骨子は次のとおりです。

はじめに～日本人の伝統的自然観～
1. 越後平野の特徴と放水路開発
2. 萬代橋と新潟のまちづくり
3. 大地の下の水を抜く
4. 自然復元のはじまり
5.「ラムサール都市・新潟」は可能か?
最後の夢

新潟市の潟の成り立ちを信濃川などの治水の歴史とともに解説いただきました。また、低湿地の新潟平野が潟を経由して多数の放水路で排水されてきたことで発展した歴史と、その放水路を通じて潟と海が生態系として繋がっていることや、瓢湖、佐潟がラムサール条約登録され、福島潟も検討中である新潟市は「ラムサール条約都市」と呼べるストック（グリーンインフラ）を持っていると説明がありました。

なお、河川工学が専門の大熊先生が、これまでの学術的研鑽、NPO法人新潟水辺の会、ドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」の制作などの体験、人との出会いなどを通じて得たものとして、「日本人の自然に対する思想は、『自然の利用』や『自然の克服』、『自然保護』でなく本来、『自然と共生』することにあった。」とする自然観と「川とは山と海とを双方向に繋ぐもの」という考え方の2つの観点で技術論を展開されていたことが印象に残る基調講演でした。

大熊孝名誉教授の基調講演

3. グループ討議

（1）新潟市からの話題提供

グループ討議では「潟の保全と活用」をテーマとしました。具体的な議論を始める前に、新潟市環境政策課小林博隆氏と新潟市潟環境研究所の隅杏奈氏から、「新潟市の潟の保全・活用に関する現状の取組みと課題」と題して話題提供をお願いしました。

新潟市からの話題提供

（2）グループ討議

「潟の保全」をテーマとするA班と「潟の活用」をテーマとするB班とに分かれてグループ討議を行いました。各グループには新潟市の方も参加いただきました。グループ討議では環境以外の技術者も自分の経歴・知見から自由に討議いただき、活発な議論ができました。

グループ討議の様子

4. 現地見学

潟の保全・活用を実践している事例として新潟市北区にある十二潟、福島潟を現地見学しました。

十二潟は、新潟市の市民文化遺産の一つとして認定されていますが、民有地であるため、NPO法人「いいろこ十二潟を守る会」が寄付金を集めてナショナルトラスト活動を行っています。理事長の山崎氏に案内いただき、近くの小学校の環境授業のフィールドになっているなど、地元との関わりなどを紹介いただきました。

十二潟の視察状況

福島潟は雨天のため現地見学は途中から展望施設であり、地域文化･創作活動の拠点でもあるビュー福島潟の建物内で研修を受けました。館長の佐藤氏より福島潟の治水、歴史、自然、地域の活動などを紹介いただきました。

福島潟の視察状況

5. おわりに

「環境」というテーマは専門性も有するが、道路、河川、都市計画、上下水など各分野で横断的に関わる知識・知見であるとの認識で企画した技術セミナーでした。新潟市や現地で案内いただいた皆さんの多大なる協力のもとで無事終えることができました。今回の開催結果を踏まえ、今後定期的な活動として進めたいと考えています。

参加者の集合写真

お知らせ

平成29年度「小学生のための出前講座」
新潟市立東青山小学校

〈広報部会　広報委員会〉

小学校での出前講座

新潟市立東青山小学校では、自分の将来の夢やなりたい自分、これからの生き方や職業観について考えるためのキャリア教育を毎年行っており、この一環として出前講座の依頼を受けました。

対象は小学校６年生の約90名で、平成29年11月30日に実施し、ゲストティーチャーとして髙橋広報委員長、そのサポートで佐々木広報部会長と橋本事務局員の３名が出席しました。

髙橋広報委員長は、児童の皆さんと同じ目線で、自分の６年生時の写真を紹介し、どんな子供だったのか話をしながら出前講座を始めました。

コンサルタントの仕事

「建設コンサルタントって聞いたことある人？」「公共事業って聞いたことある人？」このような質問から、建設コンサルタントの仕事について説明を始めました。

東青山小学校校区内である電鉄線跡地や自転車通行帯による整備、関屋分水路建設の前後の比較写真等を使い、普段、児童の皆さんが利用しているところは公共事業により作られている事を紹介しました。

児童の皆さんは「建設コンサルタント」という聞きなれない仕事に、説明を聞きながら必死にメモを取っており、その熱心な姿に先生も驚いていました。

ペーパータワーの製作

北陸支部として新たな試みとなる「ペーパータワーゲーム」を15グループに分かれて、児童全員で行いました。

材質の異なる数種類の紙とセロハンテープで、制限時間内に高くタワーを作るゲームです。

作戦タイム８分、組み立て時間５分という短い時間内に、積む、倒れるを繰り返し、慌てた様子でゲーム終了となりました。

このゲームでは、調査、計画、設計、施工を体感してもらうことを狙いとして実施しました。

紙の材質・強さについて＝調査
どうやったら高く作れる＝計画
作り方を絵に書く＝設計
作ってみる＝施工

結果は、サンプル画像を何度も確認し、チームワークで着実に組み立てたグループが１位となりました。皆さんが試行錯誤しながら懸命に、そして楽しみながら取り組む姿がとても印象に残りました。見ていてとても楽しかったです。

ペーパータワー製作では、グループ内でどう作るのか相談するなど、自分の話を伝えるだけでなく、相手の話を理解する事も大事になります。これらはコミュニケーション力ですが、児童の皆さんにとって、将来、働く際、また現在の学校でもコミュニケーション力が大切であることをこの体験を通じながらお伝えしました。

おわりに

今回の出前講座を無事開催できましたことを、東青山小学校の児童、地域教育コーディネーター、そして先生に感謝するとともに、御礼申し上げます。

お知らせ

平成29年度 河川研修会報告
－梯川堤防開削現地検討会及び勉強会（北陸地整との共催行事）－

〈技術部会　河川及び砂防委員会〉

1. はじめに

今年度の研修会は、北陸地方整備局との共催行事として、石川県小松市を流れる梯川右岸8.0k及び9.0k付近の引堤に伴う樋管撤去の堤防開削現場について、堤体土の土層構造の把握や築堤履歴、構造物周辺等の水みちの有無を確認し、堤防の耐浸透や耐震に関わる質的向上の検討を行うことを目的として二日間にわたり開催されました。協会からの参加者は、一日目の現地検討会に26名、二日目の勉強会では23名となりました。

2. 日程

研修会の日程は、以下の通りです。

◆12月14日（木）　13：30～16：00

【現地検討会】

1. 開会
2. 挨拶
3. 工事概要の説明等
　①講師紹介
　②現地検討会工程説明
　③梯川河川改修事業概要説明
4. 現地検討会
　①梯川9.0k付近（右岸）
　②梯川8.0k付近（右岸）
　・堤防開削箇所における地質調査
　・河道拡幅実施中の河川改修工事現場等
　③梯川3.0k付近（輪中堤）
　・完成した分水路事業の工事状況

◆12月15日（金）　9：00～12：00

【勉強会】

①近年の浸透による被災事例から得られた知見と調査の重要性
（国研）土木研究所　石原主任研究員
②堤防開削時に物理探査事例
③梯川堤防の漏水現象
（株）キタック　佐藤取締役技術第一部長

3. 現地検討会（1日目）

（1）工事概要の説明等

梯川は、洪水を日本海へ流す能力が低く、昭和46年から直轄河川改修事業が行われていますが、近年では、平成25年7月に発生した梅雨前線による洪水が観測史上第1位を記録したほか、平成10年～平成18年にかけて観測史上第2位～第5位までの大きな洪水が頻繁に発生しており、今後、梯川水系河川整備計画（平成28年3月策定）に基づき、概ね20年間に堤防の整備（引堤等）や河道掘削、堤防の質的整備等が実施されるとのことでした。

工事概要説明等の様子

（2）梯川9.0k付近（右岸）堤防開削箇所

本地点の堤防は、昭和10年に完成したものであり、堤防開削断面の土層構成は、複雑なうえ、上流側と下流側で異なっていることが確認できました。また、川裏側には水みちとなる直径7～8cmのモグラの穴と推定される空洞も確認できました。

現地検討会の様子（梯川9.0k付近）

（a）上流側　　（b）下流側

堤防開削断面（梯川9.0k付近）

（３）梯川8.0k付近（右岸）堤防開削箇所

本地点の堤防は、昭和17年に完成したものであり、堤防開削断面の土層構成は、ほぼ同じ構成となっていましたが、8.0k付近では、粘性土（Bc）で築堤された堤防に礫混じり砂（Bsg）を前腹付けして築堤された状況を確認することができました。

現地検討会の様子（梯川8.0k付近）

（a）上流側　　（b）下流側

堤防開削断面（梯川8.0k付近）

（４）梯川3.0k付近（輪中堤）

本地点の輪中堤は、国指定重要文化財を浮島方式により現位置で保全して河川改修されたものであり、計画策定から21年を経て平成29年11月に完成したものです。今回は、現地検討会に合せて輪中堤（延長460m）及び分水路（230m）の状況を見学し、堤防の耐震対策（地盤改良工）の概要や護岸ブロック（自然石風護岸、環境配慮型護岸）の状況、粗朶沈床工の状況を確認することができました。

（a）分水路側　　（b）本川側

輪中堤及び分水路（梯川3.0k付近）

4. 勉強会（2日目）

勉強会は、金沢河川国道事務所で行われました。

①「近年の浸透による被災事例から得られた知見と調査の重要性」では、堤防の浸透問題の難しさと物理探査の現状と取組状況

②「堤防開削時に物理探査事例」では、新潟県内の現場において実施された堤防開削調査結果と物理探査結果の比較結果

③「梯川堤防の漏水現象」では、漏水現象の発生要因に関する考察

という内容でした。いずれも被災事例から得られた知見についてのご講演であり、非常に興味深い内容でした。

勉強会の様子

6. おわりに

今年度の河川研修会では、普段見ることができない堤防開削断面を観察することや樋管工事の現場を見ることができ、また勉強会では、被災事例から得られた知見を聞くことができ、今後の業務に活かせる大変有意義な内容となりました。

最後に、ご多忙の中、現場をご案内いただきました北陸地方整備局の皆様ならびに関係者の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

北陸支部活動報告

平成29年９月１日
北陸支部防災訓練及び協会防災演習
場　所／北陸支部会議室
内　容／FAX及びメールによる情報伝達訓練
参加者／支部長、副支部長、災害対策部会、総括部会

平成29年９月６日
平成29年度第３回役員会
場　所／新潟市内
議　題／協会本部運営会議報告　他

平成29年９月６日
北陸ブロック意見交換会
場　所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局　小俣局長　他10名
新潟県　鈴木技術管理課長　他１名
富山県　茂崎建設技術企画課主幹
石川県　浅田監理課技術管理室室長
新潟市　西脇技術管理センター所長　他１名
協会本部　村田会長　他12名
北陸支部　寺本支部長　他20名

平成29年９月８日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／５名

平成29年９月15日
橋梁現場見学会
派遣先／上信越自動車道
内　容／滝寺第二橋（連続２主版桁橋）
場所打ちPC床版の施工見学
二俣川橋（PCラーメン橋）　張り出し架設見学
参加者／16名

平成29年９月19日
新潟地域委員会
場　所／北陸支部会議室
内　容／平成29年度意見交換会について

平成29年９月20日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／新発田市立川東中学校
対応者／國兼広報委員

平成29年９月20日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／１名

平成29年９月20日
情報セキュリティ講習会（本部主催）
場　所／東京都内（関東web開催）
内　容／情報セキュリティ対策について

平成29年９月28日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／十日町市立川西中学校
対応者／高橋広報委員

平成29年10月４日
セメント系固化材の利活用セミナー（後援）
場　所／新潟市内
内　容／講演「大規模災害に対してセメント系固化材
による地盤改良が果たす役割」
東京工業大学大学院
教授　北詰　昌樹　氏
講演「セメント系固化材の概要と
適用事例調査について」
（一社）セメント協会
セメント系固化材普及専門委員会
委員長　齋藤　準護　氏
講演「セメント系固化処理工法の
新しい改良形式について」
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術
研究所　港湾空港技術研究所
地盤研究領域　領域長　兼
土質研究グループ　グループ長
森川　嘉之　氏
講演「発生土や分別土の利用と
地盤環境への影響」
京都大学大学院　教授　勝見　武　氏

平成29年10月５日
第14回地盤調査法講習会（後援）
場　所／新潟市内
内　容／（１）ボーリング
（２）室内土質試験
（３）原位置試験
（孔内水平載荷試験、サウンディング）
（４）PDC試験（ピエゾドライブコーン）

平成29年10月６日

女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い（後援）

場　所／新潟市内

内　容／講演「マンパワーアップ小委員会の活動」
新潟大学工学部社会基盤工学プログラム
准教授　大竹　雄　氏

発表　第一部　学生目線で考える建設関連産業の課題と将来への期待

第二部　現状の課題、そして魅力と将来への期待

パネルディスカッション
「建設関連産業での女性・若手が活躍するためのロードマップ」

平成29年10月11日

建設コンサルタンツ協会北陸支部主催　業務・研究発表会

場　所／新潟市内

内　容／基調講演「薄板モルタル供試体を用いたミクロ塩害環境の評価」
新潟大学工学部
社会基盤工学プログラム
佐伯　竜彦　教授

業務・研究発表　８編

学生講演　２編

参加者／143名

平成29年10月12日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局道路部橋梁初級研修
（既設橋の耐震補強設計）

派遣数／１名

平成29年10月13日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局道路部橋梁初級研修
（非破壊検査技術）

派遣数／１名

平成29年10月13日

新潟県立新潟工業高校出前講座

場　所／新潟国道事務所管内

内　容／見学　新潟中央環状道路、
一般国道８号白根バイパス
（ICT土工、軟弱地盤対策、擁壁、
道路設計、平面交差点、道路付属施設、
ボックス、EPS工法 等）

座学　道路設計概論

平成29年10月13日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／１名

平成29年10月14日

長生橋80周年事業（長生橋のこれからを考えるシンポジウム）（協賛）

場　所／長岡市内

内　容／基調講演「長生橋の現状、課題、長寿命化に向けて」
国立大学法人長岡技術科学大学大学院
准教授　宮下　剛　氏

写真コンテスト
長生橋の魅力（ステキ）再発見写真コンテスト

パネルディスカッション
「長生橋のこれから～未来への橋渡し～」

平成29年10月15日

第28回土木フェスティバル（後援）

場　所／国営越後丘陵公園

内　容／屋内会場（暖の館）
土木／防災用パネル・模型などの展示
屋外会場（緑の千畳敷）
土木/防災用機械の展示・体験・実演
現場見学会

平成29年10月15日

会誌「雪の音」Vol.131号発刊

担　当／広報部会　会誌編集委員会

平成29年10月18日

大学等PR活動（PR冊子配布及び説明会）

場　所／新潟大学工学部建設学科

対応者／樋浦情報委員長

平成29年10月18日～19日

まちづくりセミナー

場　所／浜松市役所

参加者／13名

平成29年10月20日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／１名

平成29年10月21日

新潟県立新潟工業高校生徒保護者との意見交換会

場　所／北陸地方整備局

内　容／生徒保護者11名との意見交換会

対応者／飯田　雅之　氏、山田　裕介　氏

平成29年10月24日

雪崩講習会（協賛）

場　所／長岡市内

内　容／講演「知っているようで知らない雪崩の話」
新潟大学名誉教授　和泉　薫　氏
講習「雪崩対策の基礎」
（株）プロテックエンジニアリング
西田　陽一　氏
講習「雪崩対策の検討手順」
（株）アルゴス　渡辺　伸一　氏
講習「雪崩の調査方法と維持管理」
町田建設（株）　町田　敬　氏
講習「写真で見る雪崩の実態」
NPO法人なだれ防災技術フォーラム
新開　龍三郎　氏

平成29年10月25日

新潟県との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／新潟県　美寺土木部長　他15名
北陸支部　大平副支部長　他11名

平成29年10月25日

平成29年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会中越分科会

場　所／長岡国道事務所

出席者／藤巻建設環境委員

平成29年10月26日

ICTセミナー（本部主催）

場　所／新潟市内

内　容／・CIM導入ガイドラインの概要
・i-Construction関連情報、SIM活用のユースケース
・OCF活動紹介、関連ソフト紹介

参加者／23名

平成29年10月26日～27日

第16回多自然川づくり北陸ブロック担当者会議（共催）

場　所／富山市内

内　容／分科会
基調講演「謎多き富山の水循環」
富山県立大学
准教授　手計　太一　氏

平成29年10月27日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／１名

平成29年10月27日

平成29年度契約のあり方講習会（本部主催）

場　所／新潟市内

内　容／「土木設計契約上の法的問題」
弁護士　大森　文彦　氏

参加者／87名

平成29年10月31日

社会貢献活動　土木出張PR

場　所／村上市立山北中学校

対応者／飯田広報委員

平成29年10月31日～11月１日

平成29年度道路・トンネル現場見学会

場　所／輪島道路（能越自動車道）、
羽咋郡市門前基幹道農道

内　容／見学　輪島道路－ICT土工、
羽咋郡市門前基幹道農道－雁木･北浦トンネル

参加者／13名

平成29年11月１日～２日

けんせつフェア北陸 in 新潟2017

場　所／新潟市内

内　容／・民間企業の新技術・新工法の展示・紹介
・民間企業の建設機械等の展示（屋外展示場）
・北陸地方整備局・石川県・富山県・新潟県の事業・施設等を紹介
・「i-construction」に関連する展示技術の紹介
・県内建設企業と学生を対象とした「合同企業セミナー」

平成29年11月２日

品質セミナー“エラー防止のために”（本部主催）

場　所／新潟市内

講　師／本部技術委員会照査特別WG委員

内　容／各セッションの調査・設計分野に現れるエラー事例の紹介、技術的分析、並びに照査の具体的改善について講義

参加者／国11名、県12名、会員89名、計112名

平成29年11月２日

講師派遣

派遣先／TEC－FORCE研修

派遣数／１名

平成29年11月５日

いしかわ「道の駅」フェス in 白山（後援）

場　所／白山市内

内　容／基調講演「道の駅」と地方創生
筑波大学　特命教授　石田　東生　氏
パネルディスカッション
情報発信拠点「道の駅」を活用した地域活性化

平成29年11月６日
大学等PR活動（説明会）
場　所／石川県立大学
対応者／西川河川及び砂防委員、稲葉建設環境委員

平成29年11月７日
第33回雪シンポジウム in 湯沢（後援）
場　所／湯沢町内
内　容／基調講演「雪国と食文化」
講師　岩佐　十良　氏
（クリエイティブディレクター
（株）自遊人　代表取締役）
パネルディスカッション
テーマ「雪国からの発信、そして連携」

平成29年11月８日
水文観測講習会（共催）　新潟地区
場　所／新潟市内
内　容／水文観測の必要性・重要性を中心とした基礎講習会

平成29年11月８日・９日
講師派遣
派遣先／北陸地方整備局道路構造物管理実務者研修（トンネル）
派遣数／２名

平成29年11月８日～９日
建設環境委員会　技術セミナー
場　所／新潟市内
内　容／基調講演「越後平野の変遷と
かろうじて残された潟群の保全
～ラムサール都市・新潟に向けて～」
講師　新潟大学名誉教授
（新潟市潟環境研究所所長）
大熊　孝　氏
現地視察　十二潟
案内人　NPO法人いいろこ十二潟を守る会
理事張　山崎　敬雄　氏
現地視察　福島潟
案内人　ビュー福島　館長　佐藤　安男　氏
参加者／18名

平成29年11月９日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／１名

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）
派遣数／３名

平成29年11月10日
水文観測講習会（共催）　富山地区
場　所／富山市内
内　容／水文観測の必要性・重要性を中心とした基礎講習会

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／１名

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／長岡高等専門学校
派遣数／１名

平成29年11月10日
講師派遣（オブザーバー）
派遣先／わかりやすいPC橋の施工技術研究会（新潟）
派遣数／１名

平成29年11月15日
新潟市との意見交換会
場　所／新潟市内
出席者／新潟市　本多土木部長　他12名
北陸支部　中俣新潟地域委員長　他12名

平成29年11月15日
独占禁止法等遵守に関する講習会（共催）
場　所／金沢市内
内　容／「入札談合と独占禁止法」
（公財）公正取引協会
客員研究員　相馬　哲夫　氏

平成29年11月15日
富山県景観づくりフォーラム2017（後援）
場　所／富山市内
内　容／表彰式「うるおい環境とやま賞」
「景観広告とやま賞」
講演「富山の新しい視点場」
建築家・東京大学名誉教授
内藤　廣　氏

平成29年11月16日
大学等PR活動（説明会）
場　所／長岡工業高等専門学校
対応者／真嶋品質向上委員長、須田河川及砂防委員長

平成29年11月17日
講師派遣（オブザーバー）
派遣先／わかりやすいPC橋の施工技術研究会（金沢）
派遣数／１名

平成29年11月17日
講師派遣
派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）
派遣数／１名

平成29年11月19日
大河津分水講演会2017
横田切れから120年を越えて　未来の河川防災を知る（後援）
場　所／三条市内
内　容／「超過洪水に対応するには
～持続可能な流域管理を考える～」
玉井　信行　氏（東京大学　名誉教授）
「昔の洪水と現代の出水から、
未来の洪水を考える」
早川　典生　氏
（信濃川大河津資料館友の会　理事長）
「大河津分水路改修工事について」
田部　成幸　氏
（北陸地方整備局　信濃川河川事務所長）

平成29年11月22日
大学等PR活動（説明会）
場　所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成29年11月22日
講師派遣
派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）
派遣数／１名

平成29年11月24日
Made in 新潟　新技術（土木・建築）展示・発表会（共催）
場　所／新潟市内
内　容／優秀技術表彰・発表
国土技術開発賞　受賞技術発表
特別講演「AI・IoTによる新時代の到来」
メディアスケッチ（株）代表取締役
兼　サイバー大学　客員講師
伊本　貴士　氏
技術発表　６社
展示技術　35社78技術のパネル・製品等展示

平成29年11月28日
平成29年度　建設技術報告会
場　所／新潟市内
内　容／技術報告、技術パネル等展示
基調講演「生産性向上のカギはこれだ！」
（株）大林組　土木本部長室
情報技術推進課長　杉浦　信哉　氏

平成29年11月29日
防災講演会（後援）
場　所／新潟市内
内　容／講演「災害の教訓と対策」
前国土交通省管理・国土保全局
砂防部長　西山　幸治　氏

平成29年11月30日
社会貢献活動出前講座
場　所／新潟市立東青山小学校
出席者／佐々木広報部会長、髙橋広報委員長、橋本事務局員

平成29年11月30日
平成29年度第４回役員会
場　所／新潟市内
議　題／協会本部運営会議報告　他

平成29年11月30日
北陸地方整備局との意見交換会
場　所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局　渡辺企画部長　他６名
北陸支部　寺本支部長　他21名

平成29年11月30日～12月１日
GIS講習会
場　所／川崎市内
内　容／SIS初級編　参加者５名
SIS中級編　参加者４名

平成29年12月２日
防災平成29年度応用生態工学　富山勉強会（後援）
場　所／富山町内
内　容／現地見学会　イタセンパラ保護池
講演１　氷見市教育委員会
主任学芸員　西尾　正輝　氏
講演２　NPO自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会　岡田　一雄　氏

平成29年12月６日
平成29年度第５回役員会
場　所／新潟市内
議　題／平成30年度事業計画及び予算　他

平成29年12月６日
協会本部木谷副会長講演会
場　所／新潟市内
内　容／演題「建設コンサルタントを巡る最近の動向」

平成29年12月６日

建設業界合同事業説明会

場　所／長岡技術科学大学

出席者／松尾若手技術者WG

平成29年12月11日

建設業界合同事業説明会

場　所／新潟大学

出席者／伊藤品質向上委員

平成29年12月14日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会

場　所／金沢河川国道事務所

出席者／新家副支部長

平成29年12月14日～15日

平成29年度　梯川堤防開削現地検討会（共催）

場　所／小松市内

内　容／現地検討会　堤防開削における現地調査、状況確認

合同勉強会「近年の浸透による被災事例から得られた知見と調査の重要性」

講師　国利研究開発法人土木研究所

主任研究員　石原　雅規　氏

参加者／26名

平成29年12月25日

建設界担い手・育成に係る出前講演

場　所／金沢大学

出席者／笹谷運営委員、白井　淳子　氏

平成29年12月25日

平成29年度第５回インフラ再生技術者育成新潟地域協議会幹事会

場　所／長岡技術科学大学

対　応／渡邊技術部会長

平成29年12月26日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会

場　所／富山河川国道事務所

出席者／山本副支部長

平成29年12月26日

けんせつフェア北陸 in 新潟2017第３回実行委員会・幹事会

場　所／新潟国道事務所

出席者／髙橋広報委員長、松浦事務局長

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

会　員　名　簿

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
朝日航洋㈱	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計㈱		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測㈱	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
㈱アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
㈱アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ㈱		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ㈱	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
㈱エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー㈱		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術㈱		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質㈱	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
㈱オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建㈱		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
㈱開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル㈱		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
㈱キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
㈱協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
㈱クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
㈱クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-2-16 キャッスル米山	025-248-2205 025-248-2206

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
㈱建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ㈱		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
㈱建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
㈱構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
㈱国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術㈱	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発㈱		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント㈱	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
㈱上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
㈱新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術㈱		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント㈱	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
㈱ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
舘下コンサルタンツ㈱		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
㈱中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
㈱千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ㈱	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
㈱東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
㈱東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント㈱		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
㈱ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
㈱日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営㈱	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
㈱ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21　4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ㈱	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3　6F	025-247-1341 025-246-1005
㈱パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
㈱プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント㈱		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント㈱		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント㈱	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
㈱村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
㈱村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント㈱	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニヤリング㈱	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
（一社）北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
（一財）新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北陸支部役員			
支部理事	支部長	寺本　邦一	開発技建㈱
〃	副支部長	大平　豊	エヌシーイー㈱
〃	副支部長	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
〃	副支部長	新家　久司	㈱国土開発センター
〃	運営委員長	坂上　悟	開発技建㈱
〃	運営委員	黒木　康生	㈱日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬川　光太郎	㈱建成コンサルタント
〃	運営委員	原　文宏	㈱建設技術研究所
〃	運営委員	青木　和之	エヌシーイー㈱
〃	運営委員	齊木　勝	㈱キタック
〃	運営委員	笹谷　輝彦	㈱国土開発センター
支部監事	支部監事	高堂　景寿	相互技術㈱
〃	支部監事	舩谷　喜代文	旭調査設計㈱

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	大平　豊	エヌシーイー㈱
	部会員	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	齋藤　真晴	開発技建㈱
	部会員	小見　直樹	エヌシーイー㈱
	部会員	泉　英樹	大日本コンサルタント㈱
	部会員	笹谷　輝彦	㈱国土開発センター

対外活動部会			
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	大平　豊	エヌシーイー㈱
	部会員	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	中俣　孝	㈱構造技研新潟
	部会員	田中　義明	大日本コンサルタント㈱
	部会員	長森　孝司	㈱日本海コンサルタント
	部会員	矢田　弘	㈱東京建設コンサルタント
	部会員	渡部　長務	エヌシーイー㈱
	部会員　幹事	坂上　悟	開発技建㈱

新潟地域委員会	委員長	中俣　孝	㈱構造技研新潟
〃	委　員	山岸　守	開発技建㈱
〃	委　員	舩谷　喜代文	旭調査設計㈱
〃	委　員	齊木　勝	㈱キタック
〃	委　員	大塚　明	エヌシーイー㈱
〃	委　員	折笠　昇	㈱開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	田中　義明	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	竹腰　直治	北建コンサル㈱
〃	委　員	吉田　勉	㈱上智
〃	委　員	泉　英樹	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	榮　知之	北陸コンサルタント㈱
石川地域委員会	委員長	新家　久司	㈱国土開発センター
〃	委　員	髙嶋　智晴	㈱国土開発センター
〃	委　員	長森　孝司	㈱日本海コンサルタント

総括部会			
	部会長	青木　和之	エヌシーイー㈱
	部会員	佐藤　浩	㈱開発技術コンサルタント
	部会員	清原　宏二	開発技建㈱
	部会員	泉　英樹	大日本コンサルタント㈱
	部会員	浦　正光	㈱日本海コンサルタント
	部会員	佐藤　雄一	㈱構造技研新潟

技術部会			
	部会長	渡邊　雅樹	開発技建㈱
道路委員会	委員長	神田　和久	開発技建㈱
〃	委　員	木村　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	首藤　直樹	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	木下　裕康	㈱国土開発センター
〃	委　員	古池　豊	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	藤本　勇一	㈱東洋設計
〃	委　員	池渕　稔	東京コンサルタンツ㈱
橋梁委員会	委員長	渡辺　正三	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	近藤　治	開発技建㈱
〃	委　員	渡邉　敦	エヌシーイー㈱
〃	委　員	大竹　滋	㈱キタック
〃	委　員	南雲　浩	㈱構造技研新潟
〃	委　員	浦　修造	㈱国土開発センター
〃	委　員	鷹西　輝	㈱東洋設計
〃	委　員	寺田　直樹	㈱開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	須　田　　玲	エヌシーイー㈱
〃	委　員	阿左美　敏　和	㈱建設技術研究所
〃	委　員	西　川　幸　成	㈱国土開発センター
〃	委　員	浜　谷　　智	五大開発㈱
〃	委　員	太　原　　晶	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	坂　上　松　則	開発技建㈱
〃	委　員	金　子　幸　生	相互技術㈱
〃	委　員	伊　藤　正　喜	㈱開発技術コンサルタント
トンネル委員会	委員長	今　度　充　之	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	須　貝　　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	麻　田　正　弘	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	江　川　千　洋	㈱キタック
〃	委　員	雪　田　真　吾	サンコーコンサルタント㈱
〃	委　員	辻　本　勝　彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小　見　直　樹	エヌシーイー㈱
〃	委　員	佐　藤　吉　一	開発技建㈱
〃	委　員	荘　司　洋　文	㈱キタック
〃	委　員	新田川　貴　之	㈱国土開発センター
〃	委　員	酒　井　信　次	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	埒　　正　浩	㈱日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐　藤　　朗	開発技建㈱
〃	委　員	稲　葉　弘　之	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	若　尾　明　弘	エヌシーイー㈱
〃	委　員	高　橋　　靖	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	西　　暢　人	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	平　野　博　範	㈱国土開発センター
〃	委　員	藤　巻　英　俊	大原技術㈱
品質向上委員会	委員長	真　嶋　利　寿	エヌシーイー㈱
〃	委　員	伊　藤　信　哉	開発技建㈱
〃	委　員	森　　将　恒	㈱キタック
〃	委　員	西　村　　治	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	若　林　　修	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	野　村　尚　樹	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	山　森　茂　明	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	高　橋　辰　夫	㈱開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋　浦　　慎	開発技建㈱
〃	委　員	岩　淵　和　有	エヌシーイー㈱
〃	委　員	大　塚　秀　行	㈱キタック
〃	委　員	加　藤　　毅	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	渡　辺　浩　二	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	安　藤　正　幸	㈱日本海コンサルタント

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹　内　　聡	開発技建㈱
〃	サブリーダー	片　岸　将　広	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	七郎丸　一　孝	㈱国土開発センター
〃	委　員	伊　藤　裕　章	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	松　尾　内　助	㈱キタック
〃	委　員	山　田　知　広	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	福　崎　正　和	㈱構造技研新潟
〃	委　員	風　間　　恵	相互技術㈱
〃	委　員	飯　野　美　樹	エヌシーイー㈱

広 報 部 会			
	部会長	佐々木　大　介	㈱ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	委　員	浜　辺　良　彦	相互技術㈱
〃	委　員	今　野　　健	エヌシーイー㈱
〃	委　員	高　橋　宏　明	開発技建（株）
〃	委　員	飯　田　　亙	㈱開発技術コンサルタント
〃	委　員	坂　原　　徹	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	大　蔵　欣　司	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	島　　由　治	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	新　家　哲　平	㈱国土開発センター
〃	委　員	芳　野　夏　輔	㈱建設技術研究所
〃	委　員	国　兼　　功	八千代エンジニヤリング㈱
会誌編集委員会	委員長	須　藤　勝　彦	㈱国土開発センター
〃	委　員	熊　倉　孝　次	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	齋　藤　浩　幸	㈱キタック
〃	委　員	長　田　宏　之	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	水　野　慎　介	㈱日本海コンサルタント

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
新潟現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	大　平　　豊	エヌシーイー㈱
〃	技術総括指揮者	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	副責任者	木　村　幸　雄	開発技建㈱
富山現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	山　本　信　二	大日本コンサルタント㈱
〃	技術総括指揮者	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
〃	副責任者	林　　達　夫	大日本コンサルタント㈱
石川現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	新　家　久　司	㈱国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
〃	副責任者	西　川　幸　成	㈱国土開発センター

顧 問			
		藤　巻　俊　二	開発技建㈱

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

糸魚川大火から昨年12月で一年が経過し、復興まちづくり計画が策定され、復興に向け迅速かつ確実に実行されていることと思います。1月13日には建設コンサルタンツ協会北陸支部主催による「防災まちづくりセミナー（糸魚川駅北大火を教訓にしたまちづくり）」を開催し多数の参加者にご来場いただき、火災に強いまちづくりについて考える良い機会となりました。

国土交通省では、生産性革命プロジェクトとして20のプロジェクトが選定されています。現在建設コンサルタント業界でも、i-Constructionの推進として、ICT活用の拡大や3次元モデルの推進などの新技術導入などもこれらの一環として推進されていることはご承知のことと思います。政府の未来投資会議では、建設現場の生産性を2025年までに、20%向上を目指す方針としています。生産性革命プロジェクトには、「小さな投資で大きな効果」ストック効果の高い社会資本整備と活用、新たな市場開拓といった視点も盛り込まれています。今後もi-Constructionの更なる推進と魅力ある職場づくりを目指し関係機関の皆様方にご指導いただきながら日々研鑽に努めたいと思います。

新たな年が穏やかであるとともに、皆様のご多幸をお祈りいたします。

須藤勝彦

発　行 ／ 一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 ／ 須藤勝彦

委　員 ／ 齋藤浩幸　　熊倉孝次　　長田宏之　　水野慎介

発　行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階

TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

http://hr-jcca.jp/